

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN

河内名所圖會

二

ル 4
4565
3



門號 4565
卷 3

大圖書館
34.6.19
藏書

河内名所圖會卷之三目錄



吉田

八幡宮

本社

石壇

御旗

冢

放生

川

水

王

放

生

川

西

琳

寺

市

向

子

流

鋪

馬

跡

長

野

山

龍

池

高

屋

古

城

安

閑

天

陵

不

動

神

院

神

殿

寶

帳

牛

地

堂

神

殿

寶

器

三

月

石

會

堂

寶

器

一

家

院

寶

器

道

風

放

居

清

寧

天

皇

女

墓

太

政

官

符

正

成

塔

永

手

墓

井

德

院

碑

飛

鳥

戶

神

社

飛

鳥

戶

造

永

手

造

麻

福

田

丸

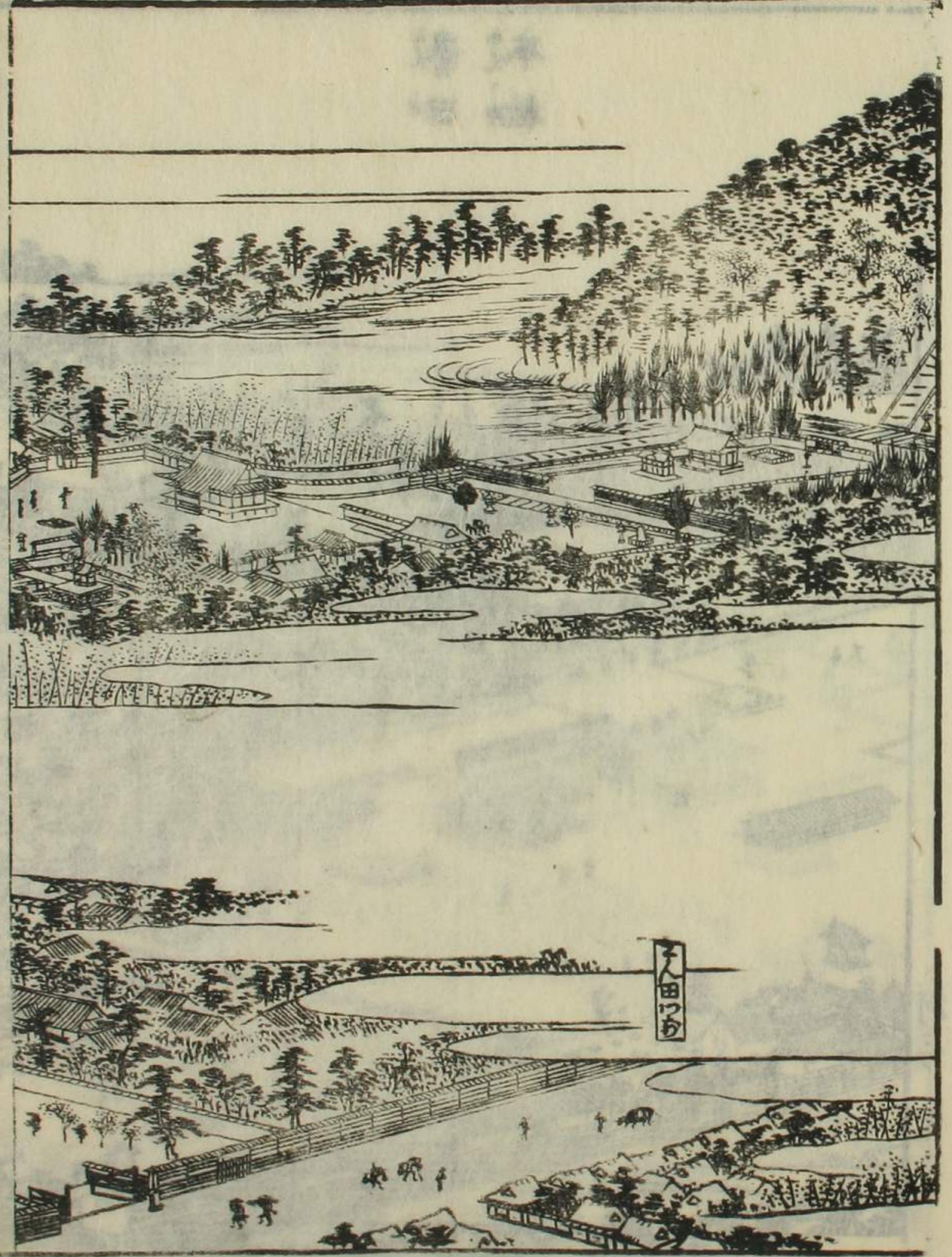
古

蹟

河内名所圖會卷之三目錄
古市郡
吉田八幡宮
善法寺
白鳥陵
惠尔弑市
輕皇子墓
駒谷
百塚
利雁神社
杜本神社
飛鳥山
物部飛鳥
金剛輪寺
山田皇女墓
飛鳥戶神社
飛鳥戶造



飛鳥假宮	於賀美神社	大黒寺
壺井八幡宮	香爐峯	壺井水
行者堂	觀音堂	壺井積現
開山堂	義家墳	神寶
玉手山	國見丘	鎮守
天王祠	玉ノ井	上社
名產菖蒲	博多川	通法寺
	奥田忠一墓	大黒石
	廣窩	
	船之松	
	鎮守	
	安福寺	
	壽世堂	
	曼荼羅堂	
	尾州公廟	
	慶長戰場	
	枯朽岳	
	春日神祠	
	原漢	
	躑躅櫻舍	
	河三ノ壹	

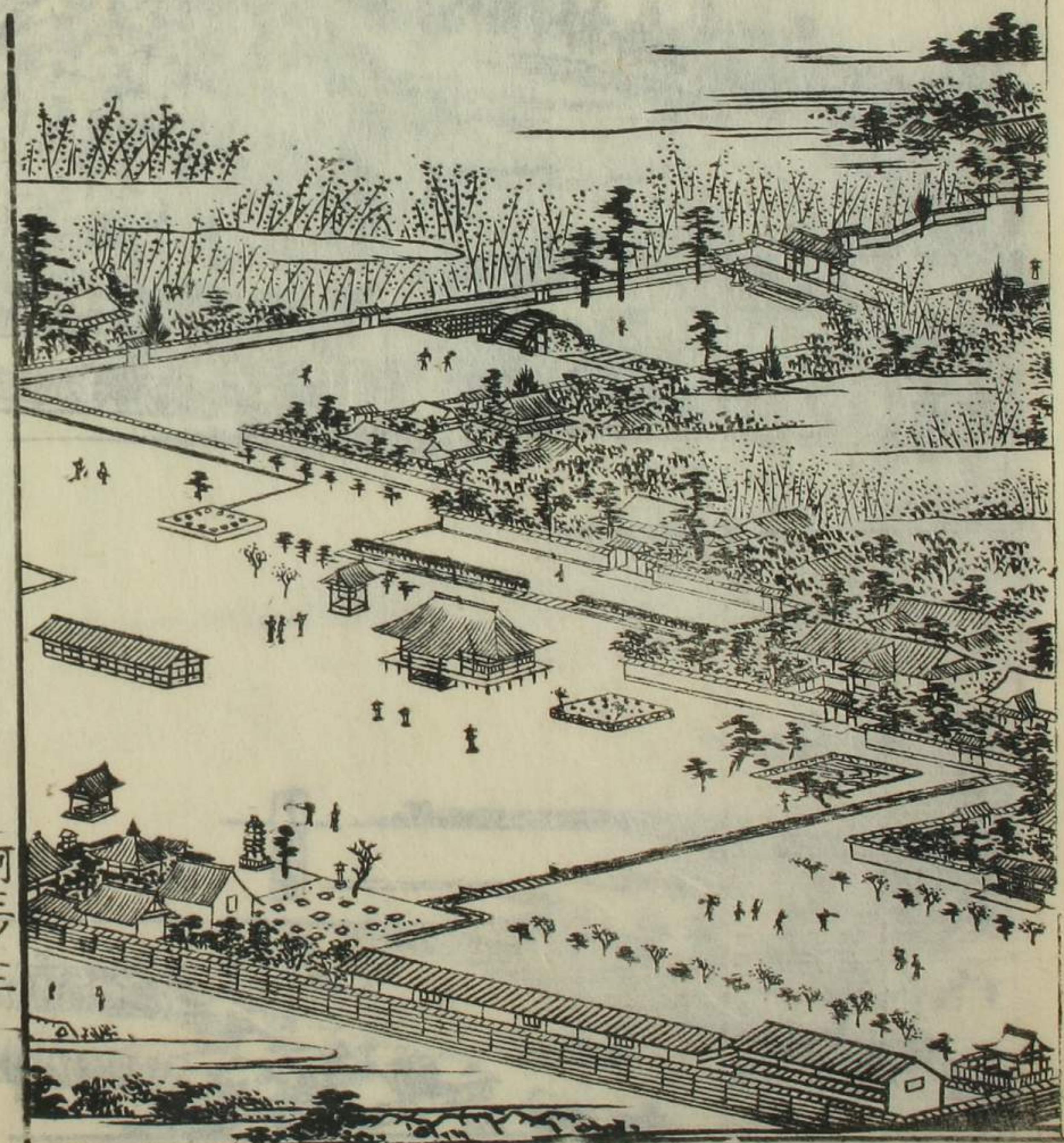


河三ノ貳

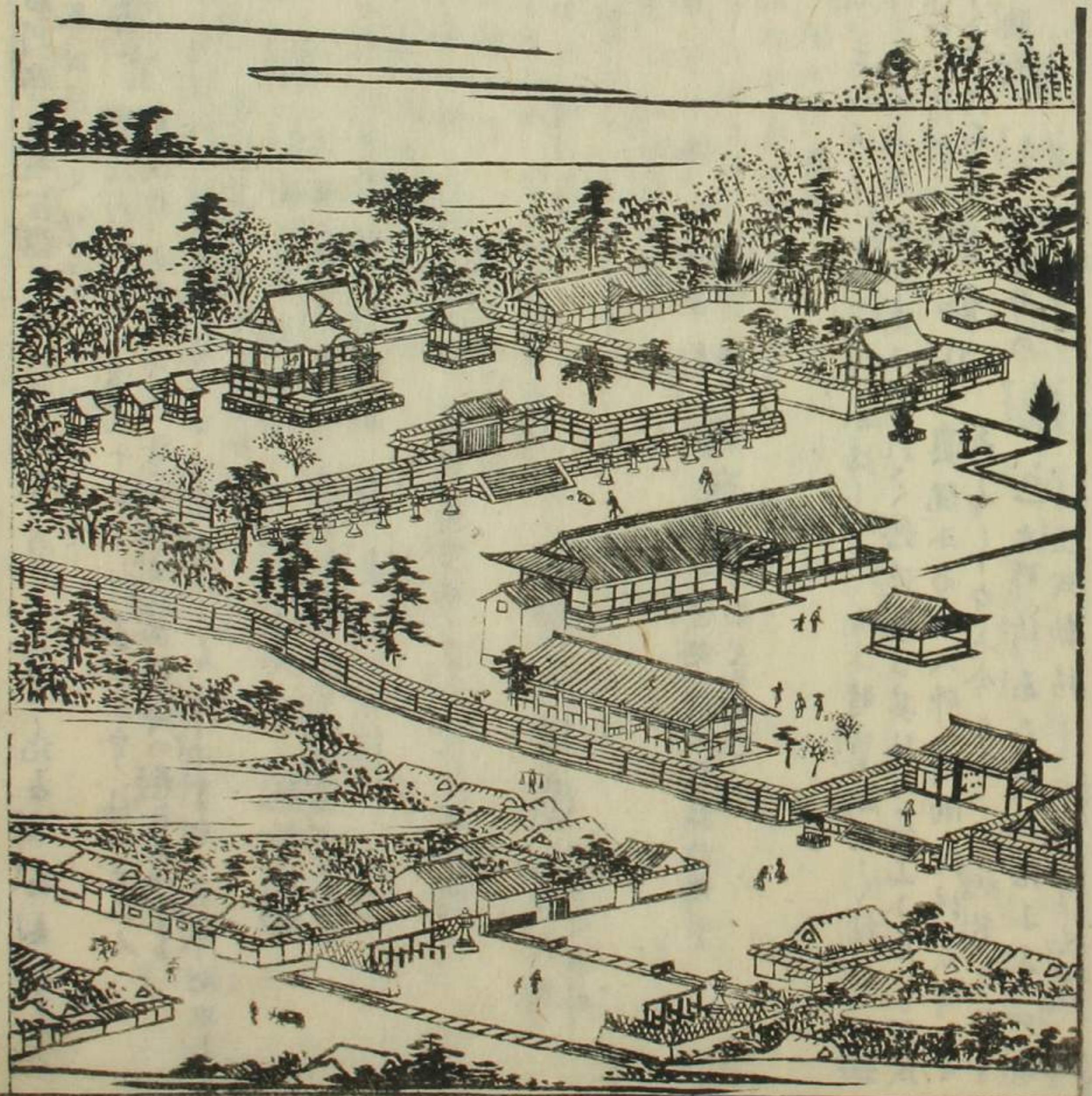


應天
神陵

本
書
社
田



河三ノ二



古市郡

東南石川郡の界に限て西は飛騨郡の界と限り北は安曇郡を有す
二郡の界が唐又和名抄と云ふ編名古市

十三宇神五人

長野山譽田八幡宮

中央應神天皇庵仲衰天皇住右大神右神功皇后一座神社以上
勅願所毎歲正月十九日社例祭内御祈禱の卷敷公持事

本社

奈神中央應神天皇庵仲衰天皇住右大神右神功皇后一座神社以上
五座を併く譽田八幡宮也

勅願所毎歲正月十九日社例祭内御祈禱の卷敷公持事

權殿

北の方に東の方に天神七代社其外繪馬殿神樂所御供所等あり
東の方に天神七代社其外繪馬殿神樂所御供所等あり

白山權現熊野權現高良社ありこれ武内宿神とある

末社

瑞蘇の外側より高良社ありこれ武内宿神とある

本地堂

謹園寺也跡を真言宗卒尊阿彌陀佛を安置し定朝作
輪藏址神馬舍址等あり

開基弘法大师

藥師堂

護摩堂址輪藏址神馬舍址等あり

弘法大师勸請

觀音堂

聖德太子作の十二面觀音坐像五天

十三層石塔婆造立之其外

寶蓮華寺

聖德太子作の十二面觀音坐像五天

十三層石塔婆造立之其外

藥師堂

護摩堂址輪藏址神馬舍址等あり

白山權現熊野權現高良社ありこれ武内宿神とある

辨財天祠

弘法大师勸請

白山權現熊野權現高良社ありこれ武内宿神とある

蛇文字石

得て終ふ其劍の光が燐れ去る其跡の石上小血

弘法大师勸請

圓鏡

弘法大师作の阿彌陀佛像

弘法大师勸請

石反橋

奥院にあり其外據の址護摩堂

弘法大师勸請

廢跡

求聞持堂址龕堂址等あり

弘法大师勸請

應神天皇陵

惠誠藻伏山周陵也跡も社家刑部老人曰御廟陵事
志紀郡序社と古市郡ありと號陵上尔近年六廟乃

寶殿

を建易外側少も前六角の金壇公立すり廟碑れ古木の枯樹

對左右小櫻

を植く石引爐二十基其下に宣食湯中門ありこれ

より雜人陵

上へ此より年次石碑

古松繁茂

赤土壺山陵少多く煙毛り蓋されと殆地也

十二歲故生

於天足形在焉蚊后天皇謂如孕田信仲

甲午朔

其天有異之天皇其名謂之天皇謂如孕田信仲

百年之產

太祖進月尊天足神功

夫は山陵古

人皇十六代の帝

應神天皇の玉體公藏奉侍所あり

天皇大和國高市郡櫛原輕島豐明宮小室居ノ移ハ御在位四拾
壹年聖壽百十乘にして同濟寧四拾一年の春二月十五日崩ニテ沛遺詔
に由リ長野の山陵小藏多は沛父仲良天皇沛寧三韓より教百萬
騎モテ奉朝ノ政ある天皇哀五萬騎を引率リテ穴戸國豊浦寧不劫犯異
賊退治の軍議ありニ韓の太將塵輪少將者黒雲小乘ドテ日辛未ワフ
人民を殺モ奉教モテ其時事安信高丸分丸孤從モ武内臣孤副將
少將自沛弓矢取能を利ク射ミセ後ハ忽塵輪首孤射斬きて亡ビ
少將其毒氣玉體少葱ありテ沛壽も危く皇妃神功皇后少勅モ
曰汝ノ將軍少將異國孤退討モテ胎内小姓ハをふなれモ陳
誕の後正一ノ月寒節小耶アトモ遣詔あり同濟寧六年二月六日
聖壽五十二案にて薨紫檀日宮少一ノ崩終ニ皇后は有小佳く
三韓退治の為小教万の軍勢と車ニ異邦トおどしたゆ人甚時自製の
老翁名く皇后少沛体は弓門司国孤毛タク香椎の邊セツ所小

着せ候少の老翁申ラム鹿島と云ふ安曇儀良モ申シのあり
海中に又ノク樓ノ案内孤若モテ者ナレモカミ召て龍寧少
ヒク千珠滿珠名あ顆を龍王少得タヒニレトモ内ニ三韓
退討あラバ勝利疑ひねシテ麥ニ皇后諾一ノヒムバ孤言孤
何シテ召ズモア翁云けキモ海波ト申舞樂を特小愛シテ
海上小舞樂と様ニ舞シメ後テ孤良連少有モベ一郎供奉
の人々ニモ樂公奏ニセ翁舞少ば孤良與モ考一テ未少久
海中少立クレモ良少モ暢胞少モシヤエ付テ津衣少被少モ
顔少處少急少つて未少其トヨ暖高案内者ニテ皇后老
沛妹豊姫を使ヒテ遣され候モ童王少リハの兩顆孤指多
られクル皇后別四十八艘の軍船を攝ヒテ異城小泊モ故近辺く
漕寄シセモアゲ干珠孤海上ノ投入モ漫々少る湖水は寒珠
に入ク陸路のモニニ韓の軍勢何才四面も既く悉く下トテ

倭船を因^カ無^カ切^カ其^カ間^カ小^カ故^カ船^カ集^カシム相^カ圖^カム
滿珠公海上へ投^カ入^カ行^カを潮水初^カ百倍^カ一^カて四方^カう涌^カ出^カレ^カ三
韓の軍勢^カ實^カこだ漏^カ走^カ一^カ異國公安^カく滅^カ一^カ行^カを^カの國日辛
國小^カ從^カひ^カ永^カ年々^カ調貢^カ奉^カト^カあ耶老翁^カ之位^カ右^カ神
久^カく地神五代鷦鷯草^カ菖^カ不合^カ尊^カの濟^カ幸^カ又^カ儀^カ良^カ也^カ方^カ法
少^カて康^カ明^カ神大和^カかく春^カ日^カ神^カ即^カ武^カ震^カ撫^カ令^カ之^カ皇后^カ執^カ策^カに
佛^カ凱^カ陣^カ十二月四日辛卯日^カ應^カ神天皇降誕^カ一^カ行^カ不^カ
今^カ不^カ於^カ如^カ日^カ以^カ繕^カ日^カ仲^カ衰^カ天皇^カの嫡^カ后^カ大^カ仲^カ姬^カの皇子^カ麟^カ姫^カ
思^カ熊^カの二王子^カ皇后^カ以^カ獄^カ人^カ侍^カけら爲^カ武^カ内^カ臣^カを^カ予^カ抱^カこ^カまで^カ
南海^カより紀伊國^カ小^カ劍^カの二王子^カも^カ皇^カ后^カや^カも^カ也^カ滅^カ一^カ先帝^カも^カ
濟^カ遺^カ勅^カ小^カより^カ濟^カ年三十一年^カと申^カ小^カ即^カ位^カ一^カ濟^カ治^カ世六十九年^カ
聖^カ壽一百と申^カ大和國高市郡磐余稚櫻宮^カ少^カく歲^カも^カ也^カ皇^カ子^カ一^カ四^カ來^カ
四^カ來^カ一^カ皇^カ子^カ小^カ立^カせ^カ濟^カ年七十一^カと申^カ小^カ即^カ帝^カ位^カ一^カ

應^カ神天皇^カ申^カま^カ仲衰^カ毒矛四室^カ治^カ世四十一年妃^カ八人男^カ九
濟^カ子十九人は濟^カ代^カ小^カ初^カ文^カ字^カワ^カ良^カ義^カを鐵^カ縫^カ之^カ車^カ將^カ坐^カ一^カや
經^カ島^カ豐^カ明^カ宮^カ坐^カ歲^カ久^カ遊^カ不^カ適^カ山^カ木^カ藏^カ一^カ年^カ厥^カ后^カ欽^カ明^カ帝^カ濟^カ
二十年二月十五日行^カ幸^カあ^カて一^カ七日參^カ菟^カ一^カ終^カ八幡^カ宮^カ神^カ
仲^カ弘^カ理^カト天皇^カ不^カ能^カ宣^カあ^カ一^カ聖^カ德^カ子^カ十六^カ歲^カの濟^カ時^カ守^カ屋^カ退^カ
の為^カ七日參^カ菟^カ一^カ靈^カ驗^カす^カ朝^カ敵^カ公^カ亡^カ一^カ終^カ役^カ小^カ角^カも^カ入^カ唐^カ
名^カ祈^カ禱^カ一^カ文^カ武^カ毒^カ大^カ寒^カ元^カ年四月八日^カ一^カ七日參^カ菟^カあれ^カ
其^カ滿^カ也^カ小^カ崑崙^カの玉^カも^カ磨^カざ^カれ^カそ^カ殊^カあ^カ不^カ遠^カ來^カの^カ葉^カも^カ掌^カ
ざ^カと^カ益^カか^カ一^カ示^カ現^カあ^カ又^カ傍^カ正^カ行^カ基^カも^カ一^カ小^カ蘿^カも^カ元^カ兩^カ重^カ乃^カ
勅^カを^カう^カ四^カ十^カ院^カを^カ成^カ就^カ一^カ又^カ弘^カ法^カ大^カ師^カも^カ天^カ長^カ三^カ年四月^カ吉^カ
古^カ本^カ鄉^カ西^カ林^カ寺^カも^カ一^カ夏^カの間^カ一^カ小^カ浴^カ一^カ三^カ月^カ觀^カ念^カ公^カあり^カ一^カ理^カ
坐^カ禪^カの^カ龕^カも^カ仰^カかん^カと^カ手^カ掌^カ方^カ不^カ傍^カ正^カ行^カ基^カも^カ一^カ重^カ錫^カ杖^カき^カつ^カ
て^カ巡^カ陵^カの^カ濟^カ声^カ鮮^カ不^カ大^カ師^カに告^カく^カ同^カ

歸命金剛祕密佛

靈智令法久住世

爲度末世諸衆生

世間出世利群生

誓首八幡大菩薩

示現神通度衆生

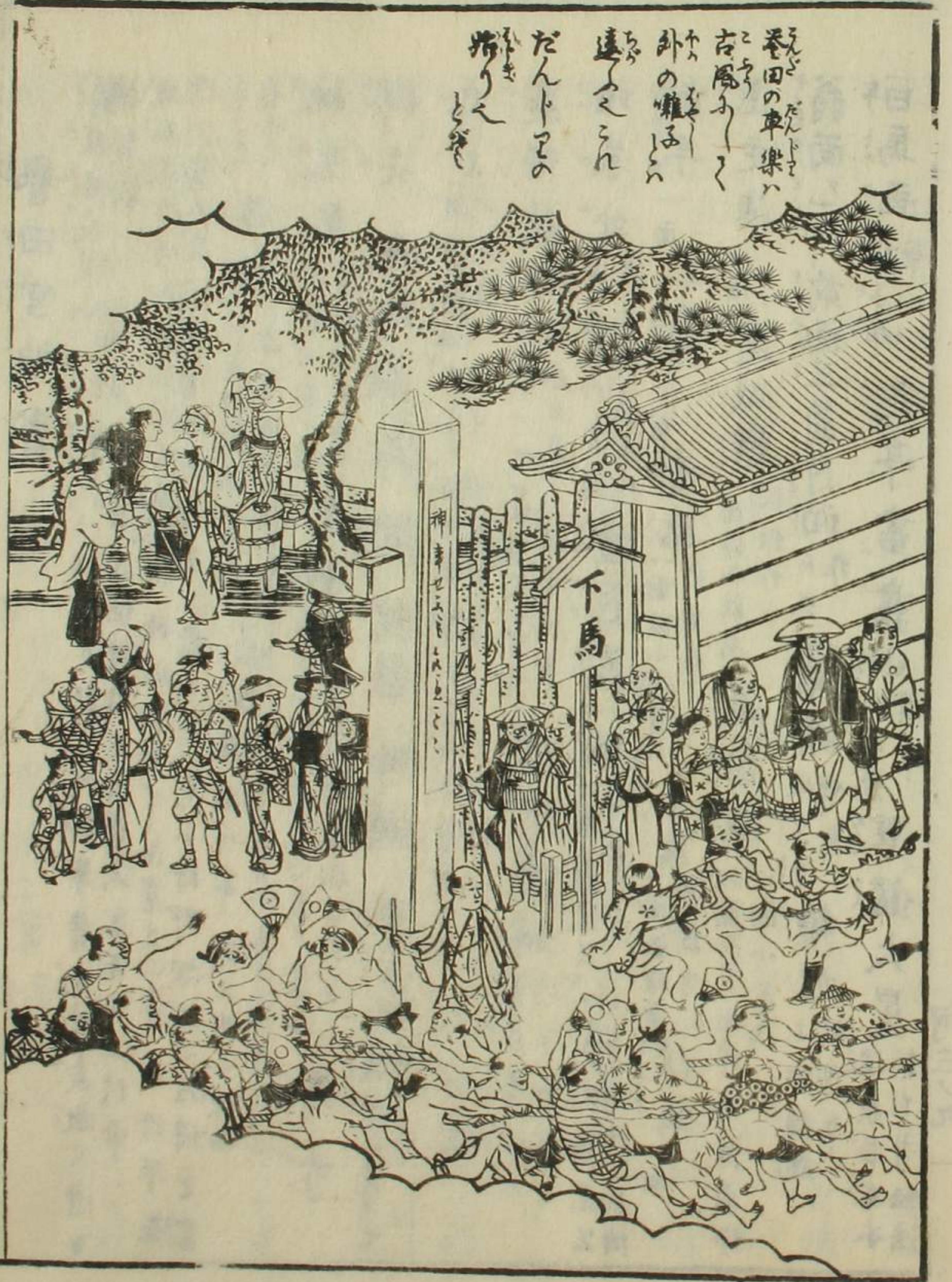
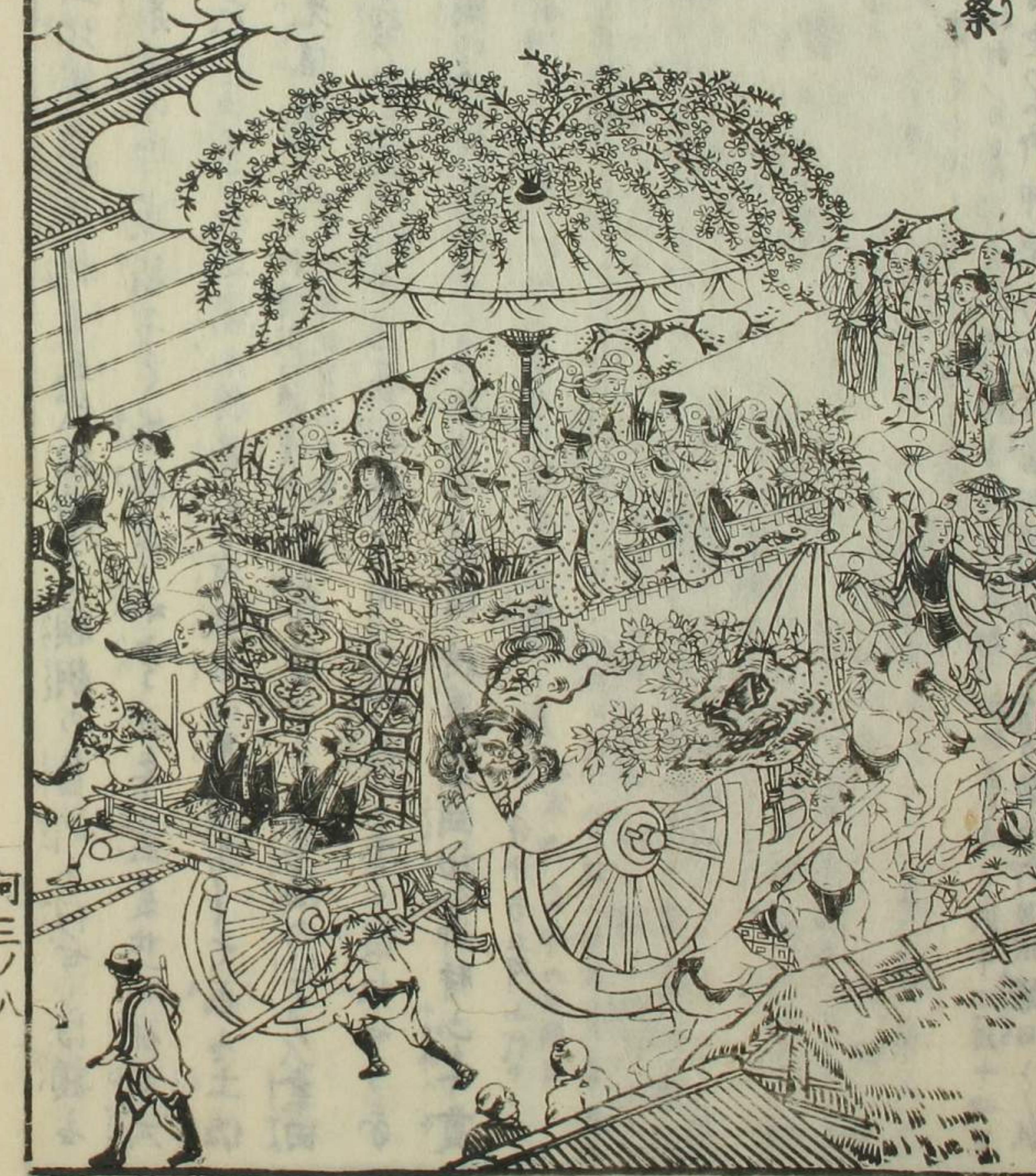
斷除十惡為十善

覆護衆生能與樂

天長五年天下大旱懇乞淳和帝の詔を蒙りて六月朔日より一七日
祈歎之禮法一經少不怒若女龍王八大毫神現して首兩縣一
又仁和二年四月十四日菅亟相道明寺ふ御寺より附此小奉院あと
ほ神童を人祐種うり現れ寶鏡を授ひ今疏紫安樂寺ふ御寺より
也移入其后後冷泉院拂字示現ありて拂廟前の宮殿を改名南へ
去奉を附許すて叢市ふ拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂拂
とある又毎歲十二月吉日とえきて諸の山陵へ荷前の官幣城
馬車延喜式公車根源等ふ見そぞ右方將賴朝卿
建久七年ふ社頭伽藍新ふ造営ありて拂神鎮方四十町也

定ゆ北條九代足利十五代相續く頼朝の舊例ふ但せう防額古
後冷泉院の拂宸翰ふく縁起至承亨五年孟夏廿一日征夷大
將軍左大臣兼右近衛大將足利義教公の墨蹟すて画を土佐
狗監光信ゆり已上社傳或は愚童訓等の文意星霜移多く東海の三々次東田
をもう習ひ天正の以平信長朝臣四十町の神領と悉く没収せらる
豊太閤の拂時貳百石の喜捨あり其後將軍家國初の拂時山半貢
等拂寄附あり妻ハ社説小見之れぬふ署今に達林方立町ふ代々
當社ふ四季の神幸あり正月十四日用紙をうけく曲物ふみと入江松小田公の年中の
水斗何合と知る是神宣の役り又二月初卯日種々の神供を持ぐ作法あり
檀輦音樂の真似あり三韓退治君右御ふく日奉檀輦のもと先し
拂車ふく文をナキハ猿樂ありを支難方南がよくある
放生會例年八月八日より神式始り十四日寅の上刻不神輿を奥院へ神
聖十五日拂車不還拂一寺を放神供めだくふく神祕の神
式社人ふ守護一神子共く神樂公奏をひく事舞樂あり
一ダ寛文の頃より中絶不乃ふ
十一月初卯ノ日脅宮より拂湯を拂く是神祕の來式とく十二月十四日
拂誕日也ゆ拂神幸あり産舍孤稚の洞をゆる故ふ卯日公攝日とく

車樂
轡田例祭



譽田宮神寶

額

凌冷泉院

當社傳記

祠書足利六代將軍普光院義教、會士
土佐將監光信奉人皇百十二代帝

後西院御時内裏小旅館

宿泊補修

公令せし廣寛文六年時軍家

所上覽の後板倉重矩

台金と當り別毫小持野探幽

小絵傳を書

一先鳳輦

右大將頼朝以寄附

追三條小波治

神馬鞍

頼朝公寄追鉤

鏡己上四持建久七年當社

御矢

御劍

御鉢

琴

琵琶

神鏡

瓶子

以上御吉より傳りて

太刀

栗田口應馬允

利劍大原納曾利面

聖德太子

大左鼓

庭幡

龍頭足利十代義植乞寄附

書狀數通

豊臣秀吉公

堆朱盆

秀忠公所寄附

畫

津下知状

散手

一面二舞

長成化雪月花一軸

筆

天童覺圓作

一面

退走德

一面還城樂

圓信作

一面小貳作

退宿德

一面小貳作

四面内三面律師渾真作

翁面乙御

前面三箇月面

日光鷲繪

筆

天童覺圓作

一面

大樹宸光空山姥面

筆

宸光公寄附

百馬画

趙子昂筆

花亭書畫

筆

相國臺筆

一面

軍鑑大星

漢家彝鳳本

朝白井秘法

五色鏡

水晶三角玉

硯一面

吳慶筆

太刀

永井伊賀守太刀

雲母薄組盆

哥儀款

堆朱香合

楊茂作

龍文錢

和同新圖銀

起

立卷大橋

重政筆

青色一枚八組相表

筆

五鉢二鉢獨鉢

弘法大師

持

空海奉納

筆

三尊種子曼茶羅

中將姫物

不動明王

智證大師

兩界曼茶羅

弘法大師影

真觀

般若經

弘法筆

紺紙金泥法華經

濟滿天神

愛染明王

弘法大師

影

空海奉納

筆

十六羅漢

宋朝僧

涅槃像

吉佐眼

弘法大師影

御

三尊種子曼茶羅

髮毛立色未

不動明王

智證大師

兩界曼茶羅

弘法大師影

真觀

理源大師

釋迦羅漢

月蓬等

涅槃像

吉佐眼

弘法大師影

御

納袈裟

高屋城主畠山

尾張守寄進

大自在王菩薩尊影

聖德吉子

佛舍利一粒

釋尊

十六善神

弘法大師

大自在王菩薩影

自作

十六羅漢

住僧教也

書翰二通

尊氏公

興正菩薩影

自作

十六羅漢

住僧教也

書翰二通

秀吉公

奥院寶器

右の外神寶多々とくづくらう小品を又傳來の神書寶庫にあり其傳
統にて他見を免ざば

長峰八幡宮 (香國辛未より南二町) あり大和より浦風葦原がく
は境内方を附の松林々々中ふと馬場あり今處して馬場町とよぶ御駒塚 (長峰の西ふありむりの神焉乃

日本紀云

雄畧 天皇九年秋七月河内國言ス飛鳥戸郡ノ人
伯田邊史伯孫女者古市郡ノ人書首加龍之妻也
譽田孫聞テ女産レ兒往賀聲家而月夜還於蓬蘽丘
發ス伯孫陵下逢下騎赤駿者其馬異體蓬生特相
之鞍レ馬相就視テ心欲レ之其乘駿者知テ伯孫所
置所レ換レ馬之其明且赤駿變為土馬ト伯孫心
還覓譽田陵乃見驥一馬在於土馬之間而代

市蛭子 東門の傍小御柳冢神主阿部有遠の墓よりと
二冢山 (浦陵の東に) 不動石 (浦神塚の事) 備不動石の事
中砂よ (伊波谷) あり後世うる木翻騰と相應牛頭天皇婆利寶女供傳をも

神功皇后八周福夫公 (中砂よ) 放生川 (奥院五橋の事) 放生川をり

行宮址 (今新町)

善法寺址 (放生川の事) 王水 (王水町ふゆ) 名東

後冷泉院行宮址 (今新町) 善法寺址 (放生川の事) 王水 (王水町ふゆ) 名東

河三ノ十

混雜小及人共れども譽田一村の妹内 (中砂よ) 小出と有木記に名跡の中也と
れあり (中砂よ) 小准也又譽田名産ち曾磨除うり等ふ名也

長譽

長野 (一名廢伏山) 読田内國言ス飛鳥戸郡ノ人
田壘 (多く志紀郡) 伯田邊史伯孫女者古市郡ノ人書首加龍之妻也

景行紀曰

日本武尊崩ス伊勢國詔葬於能褒野

岐宮 (琴彈原) 为テ白鳥飛去遣使球其駐處白鳥停于

上天徒葬衣冠

泉州大鳥神社流記曰

天皇造伊岐

仍名則當知

向原山西琳寺

吉市村ふあり初古向原寺とす後改々西琳寺

新集

本尊釋迦佛

百濟國聖明王持奉赤拂檀香木天竺毘首彌陀天の像

弘法大師の舳先觀音

五尺鉢朱脣士剛三世明王不動菩薩長三尺余

作り舟にて風波の矢舟小波瀬ある津

海の人所念れそ其舟を救ひて幸運也

向原山西琳寺

吉市村ふあり初古向原寺とす後改々西琳寺

向原山西琳寺

後村上院

りう頃ノ西の山や北極の花みづれ花の種々そぞる

後村上院

本尊釋迦佛

百濟國聖明王持奉赤拂檀香木天竺毘首彌陀天の像

弘法大師の舳先觀音

五尺鉢朱脣士剛三世明王不動菩薩長三尺余

作り舟にて風波の矢舟小波瀬ある津

ねあり今度

海の人所念れそ其舟を救ひて幸運也

地藏尊

本堂小安坐にて勧懲相の拂化長丈尺三寸

觀音堂

本堂の東にあり安阿弥の像也正觀音也安也

塔礎

鷗モ其めぐりふ十六壁あり

明星水

觀音堂の艮みりく龍池南の方ふあり傍有

靈泉

靈泉也

龍池

本王祠有

欽明天皇十二年冬十月百濟國聖明王釋迦の金像幡蓋
經論若干次將奉焉て帝に獻して曰支佛法と申ハ諸法在
中小最殊勝の道あるべく周公孔子も奧意弘悟も幸能む若群生
と利して功德無量く初天竺より如く震旦を流通して三韓も亦
蒙れ 天皇されば叡聞有て即歡喜踊躍し如是微妙の法を朕
いまと見て聞ば侍臣護戒大臣宿禰奏達して云今西蕃在
諸邦みかこと公禮へ我朝獨豈この小宵ん哉せ帝小同意
されそ其時物部大臣連尾卿中臣連縁子議奏して曰それ狀
圓を以て天下と天神地祇百八十神次四時小雨祭して守護え

人代小逮んでも一千有餘年異國の法を被せんして國家清平
たる事萬國も勝なり今更西蕃の神公祭奉りタテ思くと
我國神の怒あらん也遙く奏達られを天皇佛像と宿禰小
賜く種我大臣忻悦して小聖因家小安至其後向東の敵を寺
院にて向原寺と号ひ已上年來積みて聖武帝の拂宇あ大
寺の監真和尚ら公修補一又弘法大师もくふ止棲一爲
其後延長六年の事又あ大寺興正菩薩再興して律宗の淨刹を
かゝり昔日も対境庶大かくて七堂伽藍傍坊魏々寺庭世六阿
安應永年間將家乃頃文文永中の流記教通藏じ其外什寶
あり舊圖小豆子中古驅擾の患小懼く今のがくに精全也
教種うつて小畠見へたり

玉鏡あらわの竹實一百四寸深サ武す八步巡り底一面小星のくく紋様
連ふ玉性を以てほども今より八十年前洪武の時

御園天皇陵の土砂崩れを甚しく其中より參り多く出てこれよまく
物もとおう其地を村内田中何某やのへ農家の持地をうあちふ歴古

太政官符に

太政官牒河内國西蒜寺

已下全文省畧株要文

雜事參箇條

一應停止四至內殺生事

四至

東限飛鳥庄

依為太子廟廟四至內
下官符被止殺生

南限岐子庄

依為山門西塔金
往代禁斷殺生

西限尺度庄

依為根本法花堂領
往代禁斷殺生

北限譽田陵

依為大菩薩聖廟
下官符被止殺生

上文畧
義瑞寺者欽明桓武兩朝之御願舍那彌陀靈
仁祠也草創年舊先於天王寺三十箇迴
花構猶新不侵風火水七百餘歲古今奇瑞不

一河三ノ十二

可勝計其中女人入金堂之時地忽破裂盜賊
偷銅像之夜天變白晝勝絕之趣翰墨難覃措
律成群三衣一鉢之支錐乞行業積年天長地
久之勤無怠加之西多青塚皆為上古帝后之
陵廟南有靈崛則留聖德之芳骨旁見地勢不
便殺戮矧乎寺邊二里之殺生者聖主累代之
禁遏哉因茲且任上宮之記文依知識之講引
士民同心雖停殺生權門之後都不鋟用或黑
諸廟而為狩獵之場或上一河而為釣漁之處
無慚之至何不炳誠鑒請聖斷永停止四至內
正二位行大納言源朝臣定實宣奉勅依請者

弘安四年五月廿六日

弘安者鎌倉將軍惟康親王之時也全非大内裏之頃
此外二箇條之官符二通署之同年號也

惠爾城市

又會我と多々出古市村の会我門のあとあり

顯宗紀曰
相上賜

吾傳者旨酒餅香市不以直買手鞞鞞者常世等壽異乃起節歌

懷中抄物名

花櫻

匂ひる中ふをゑにのひる枝もさりてアセおき

後人手皮

恵我川

石川の一名之石川郡より流く古市小至く惠我川す

安閑天皇陵

吉市の南高屋小あり古市高屋丘陵を経て天皇の妹神木

安閑紀曰

稚井を辱く安宿志紀故郡小入る

春日山田皇女墓

皇女をは陵小合葬

安閑天皇年月葬天暖不可得窺天皇女及天皇崩于河内舊市高屋丘陵以皇后春

山田赤見

山田赤見

高屋神社

吉市古瀬浦邑子もあり延喜式に出今八幡山坐り

高屋古城

安閑帝陵の小字は天東西四堵八同南北武堵を同據址石像の不動堂松谷守高政の小居城一松也

高園を領

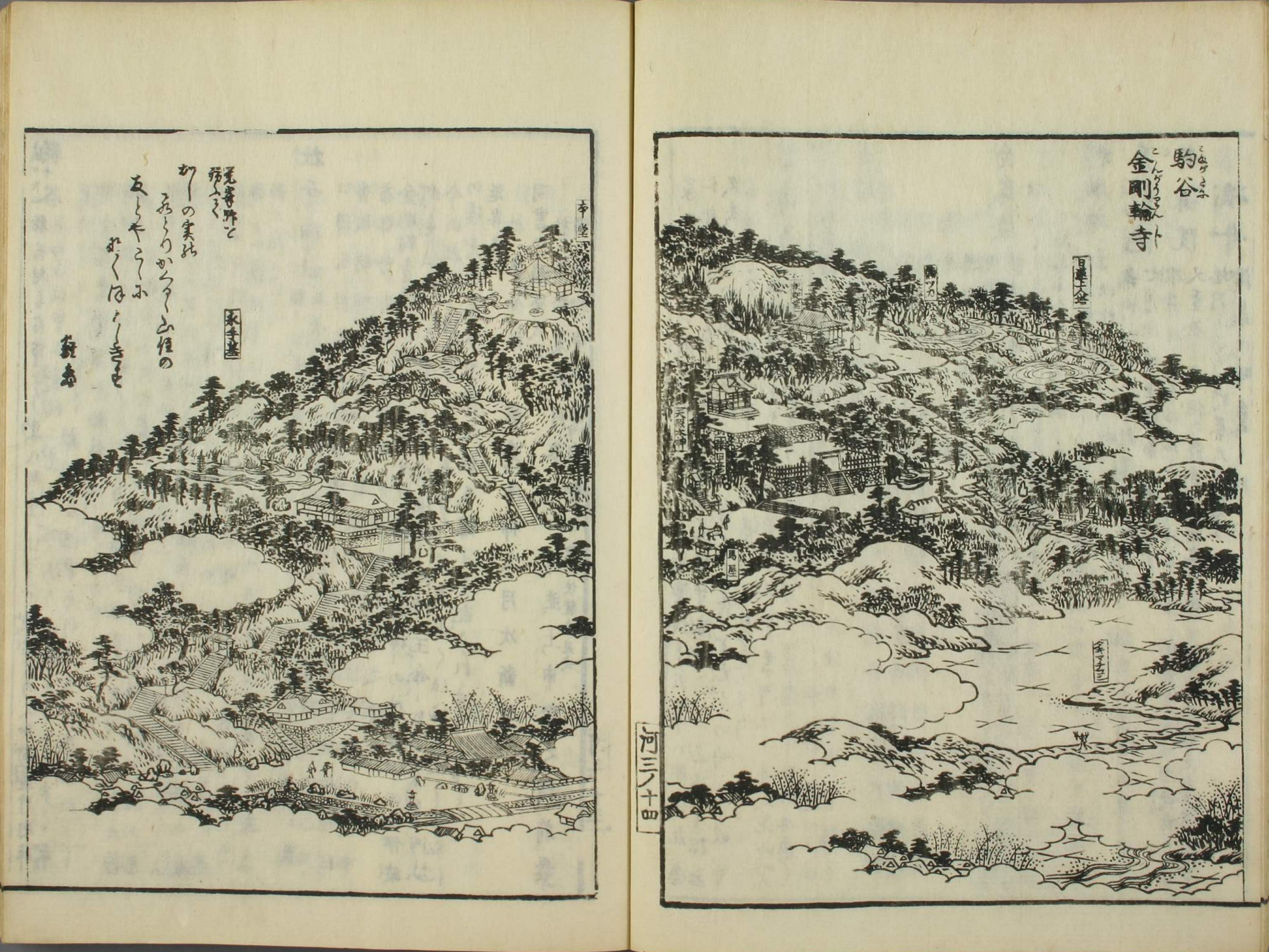
安閑帝陵の南小堵安閑帝陵の南小堵

新波津澤

仁貴天皇女にて安閑天皇の皇后なり更ノ名

山田赤見

仁貴天皇女にて安閑天皇の皇后なり更ノ名



駒

駒谷 駒谷村を古市町の駒谷八町半にて度遠うる人和樹通竹内神

谷 ふゆるは里ふま林二重牛市あり佐國うり牛と多く奉

駒 備を先賣買を駒谷の牛市と

駒田 駒谷村のむげにあり傳云推古天皇六年秋九月

駒田 駒谷のむげにあり傳云推古天皇六年秋九月

杜

杜牛神社 駒谷金剛輪寺の上方ふあり傳云推古天皇六年秋九月

杜牛神社 祀決曰河内國杜牛神社

杜牛神社 金剛輪寺覺峰師云人室十代の頃香取明神

杜牛神社 別命十世孫伊波別命之後也

杜牛神社 金剛輪寺覺峰師云人室十代の頃香取明神の神孫十四世伊波

杜牛神社 今の杜牛神社と云ふ是より其末承くば始小至一弘也

杜牛神社 の頃矢船忌おも申へ姓氏錄小モ記され

延喜式云 杜牛神社二座並名神大月次新嘗

司書内藏寮式曰 杜牛神社二座並名神大月次新嘗

勅撰ふ山下らん僧庵ふ遊行すを鑑ふと故は蓋ふ時からす

由川河内列の園学れ識者形う

支此山寺も古刹ありて中湧兵燹への災後ハ僅の丈室維摩
が居ふ比一富十笏^{トウモク}以深^{ミタマ}常小幽^{ヨウ}を蓄て禪龕を
せぐり山水月小和^{ハコ}て僧庵^{ソウア}入寂草^{シカ}煙馨^{エイセン}の香華^{カハ}
孤避^{クニ}ニ茶^{チャ}を貫^{スル}顯密^{ヒンモク}の日^ヒ四^シ長閑^{チヤウ}アリて十住心^{ジム}花^カ
旬^{クニ}鮮^{ハツ}くひり^ト老子^{ラシ}廻石驛^{シキ}の駒^{ハス}小御^{シメ}一宇^イ四海^{シキ}と先^{スル}う
更^ハ佛^ハみは地^ハ陽^ハ雲^ハ漢^ハ立^ス界^ハ是^ハ靈^ハ誠^ハそ^ト詔^ハ
崇^ハテ梵^ハ國^ハ以^ハ劍^ハ一^ト號^ハ十六^ハ山^ハ安^ハ養^ハ院^ハ益^ス此^ハ也^トわふ
本王后妃^ハ陵墓^ハ累^ハ叶^ハ四^シ成^ハ双^ツ圓^ハ是^ハ歸^ハと^ト時^ハの
人^ハ迎^ハ門^ハ應^ハ名^ハ拂^ハ寺^ハと^モ當^スと^モや年^ハ暮^ハ待^スと^モ矣^ト
後醍醐帝^ハ御^ハ宇^ハ世上^ハ福^ハされば天下^ハ清平^ハ御^ハ福^ハ乃^ハ爲^ス帝^ハ
義^ハ御^ハ藏^ハ先^ス南^ハ朝^ハ後^ス村^ハ上^ス院^ハ金剛^ハ輪^ハ寺^ハ也^ト勅^ハ
後^ス入^ス持^ハ津^ハ國^ハ舊^ハ庭^ハ代^ス害^ハら繪^ハ有^ス園^ハ宣^ハも^ハ御^ス二條^ハ為^ス明^ハ卿^ハの

被^ハ書^ハも^ハアリ^ト而^ハも^ハ無^ハ行^ス上^ス人の肖像^ハ餘^ハ外^ス付^ス寶^ハ奇^ハ妙^ハ傳^ス
寺^ハ本^ハの麻^ハ永^ハ手^ス墓^ハ清^ハ納^ス言^ハ吉^ハ墳^ハ御^ス成^ス塔^ハ風^ハ泉^ハ東^ハ
山^ハ之^ハ不^ハ居^ス也^ト慈^ハ鳥^ハ里^ハ迫^ス前^ス不^ハ可^ス測^ハ懶^ハか^ハ死^ハ川^ハ年^ハ漫^ハ
登^ハく立^スく喜^ハる囁^ハや^ハく^ハ小^ハ嶺^ハの松^ハに^ハ見^ス朝^ハの梅^ハ匂^ハ香^ス純^ハ善^ハ
清^ハ々^ハ無^ハ石^ハ川^ハの流^ス一^ト夏^ハ更^スと^モ同^ス死^ハ又^ハ秋^ハの野^ハ草^ハ風^ハ寒^ハ
寒^ハも^ハま^ハん^ハ心^ハ憎^スつ^ハ夕^ハ窟^ハく^ハ森^ハ候^ス女^ハ郎^ハ死^ハ不^ハ知^ス年^ハ
枕^ハす^ハと^モ名^ハね^ハう^ハれ^ス妻^ハと^モも^ハう^ハれ^スへ^ハ老^ハい^ハ君^ハく^ハ帽^ハ志^ハ
穴^ハふ^トう^トて^モ觀念^ハの便^ハあ^ハた^スま^ハう^ハだ^ハか^ハど^ハ茶^ハ室^ハの^モ實^ハ小^ハ唐^ハ
沈^ハ全^ハ期^ハ歌^トト^モあ^ハ和^ハ樓^院も^ハひ^ト庵^ハと^モう^トの^モ

樓^ハ正^ス成^ス塔^ハ院^ハ本^ハ勝^ハ造^ス立^スの^モ御^ス支^ス族^ハ相^ス田^ハ遠^ス

今^ハお^ハか^ハ能^ハ支^ス於^モ寺^ハ内^モあ^ハ茶^ハ院^ハも^ハひ^ト庵^ハと^モう^トの^モ

停居く通城外繆浦を度及延引以貴達く停居す一間
高五尺守斗ふ繆ニシテ付停建て停高キム風辰
文明院辰石碑よりもくふ御波ノウキト御度ヤハ其旨
御言傳て御ひるニ御自貴寺モトヨ角ヨリ有リテアリル
石工ノ者共ソ自ソテ御をテ御宣御御墨モ御ムク御傳モ

七月三日

安喜院丈文

日谷雅宮社伊波別令袁登賣令成祝多ナリテ處モ陽齒別堂カノモ櫛
御理モ謀ナリ明日大倭ヘ幸シカシヒジンモテ一卷は所不獨被之シ
回蹻キリ迎鹿名の名モカシフ起行を傳小碑あり次母昌也
當摩怪踰安宿郡五十村域カシカシ通人五六十村越シテ河内蟹
事ウハ路也カシム御行カシカシ通とソノ傍人竹也モ
事ウハ路也カシム御行カシカシ通とソノ傍人竹也モ

日本紀又古事紀曰

仲皇子將殺太子中媛太興兵圍太子宮時平群
木兔宿祢物部大前宿祢漢直祖阿知使主

人而夜難於對于火波見火飛鳥山遇光而到河內驚則急馳生技太子令乘馬
駕於日執兵者多滿山中宜迴之當日自坂而焚太子宮通
朋於是爲阿布少女言而得免難當此山向倭至
珥破能遷摩知烏能流謎鳥能流而知側歌怪踰有レ人度沛文慶多太平乎
是日辛紀の大意也仁德天皇第一の皇子國中天皇不二太子
はく海ナカニ御田文代宿祢モトノ下の姫黒媛もムモニモ起也
せんとて舍弟の佐吉仲皇子小右目とえんとて追ノ屋と金
トモサム仲皇子傳カシマの黒媛を斯ルハシテ其ノ人密小丘派
物部の臣等は率を太子小奏ナシ乗馬小技ノ人和
御園へ迎エシム仲皇子ニシテ其ノ人密小丘派
故に莫ニ御園へ迎エシム仲皇子ニシテ其ノ人密小丘派
雖波の方と顧史モ太の光職之ちふ驚き危急在也の時
かく女難カシム御波オカシム御波モ今之行内誠の大坂山に之御也
かく舉く走の道波おカシム御波モ山中之賊兵ありや小出
やうよ結ふふほひ右の和音を御トウヒ道を以テアモ
往を輸モセ太和波仲皇子波安く感シテ至也を
河内志みる事モカシム

十六山家藏之品々

日谷稚宮之碑

堅三尺五寸 橫八寸

伊波別命

暖

瑞齒別天皇

袁登賣命

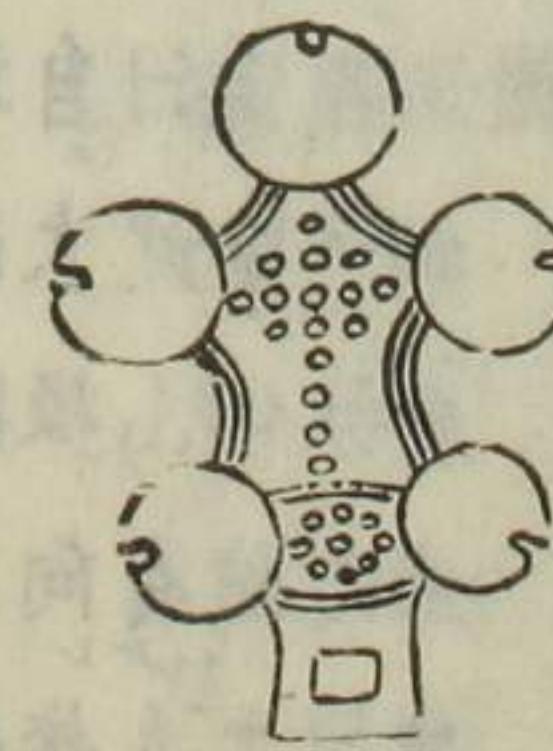
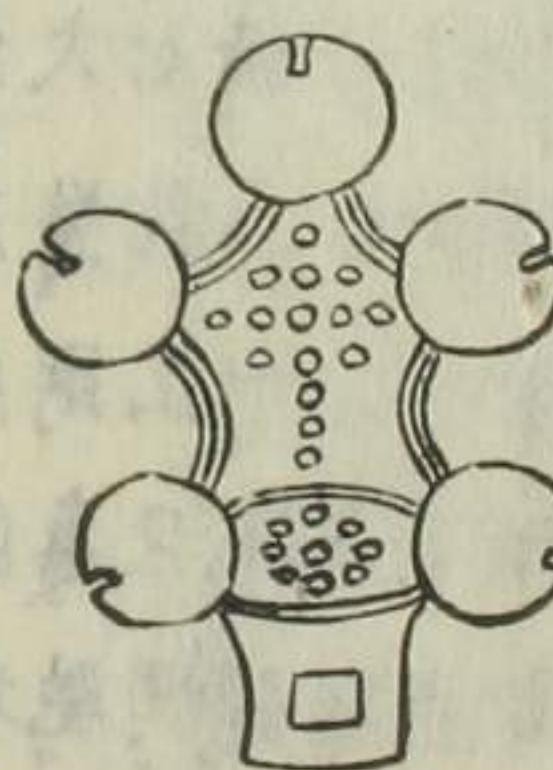
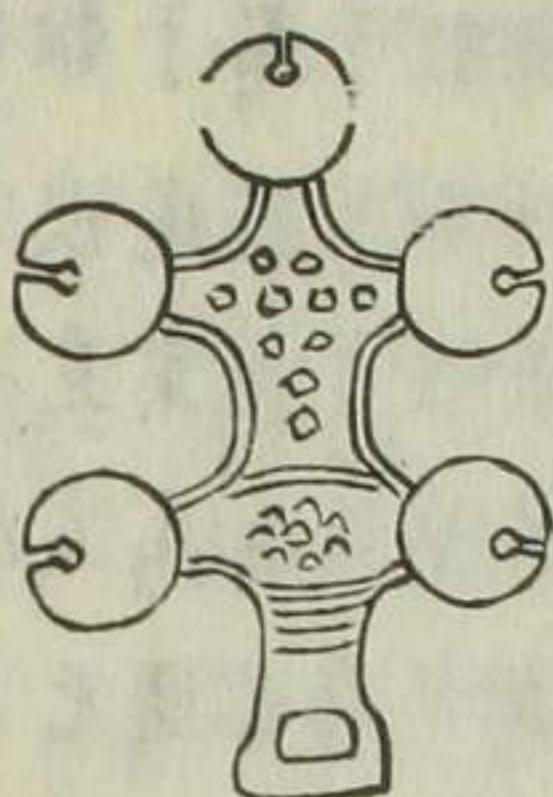
維日谷稚宮者

背

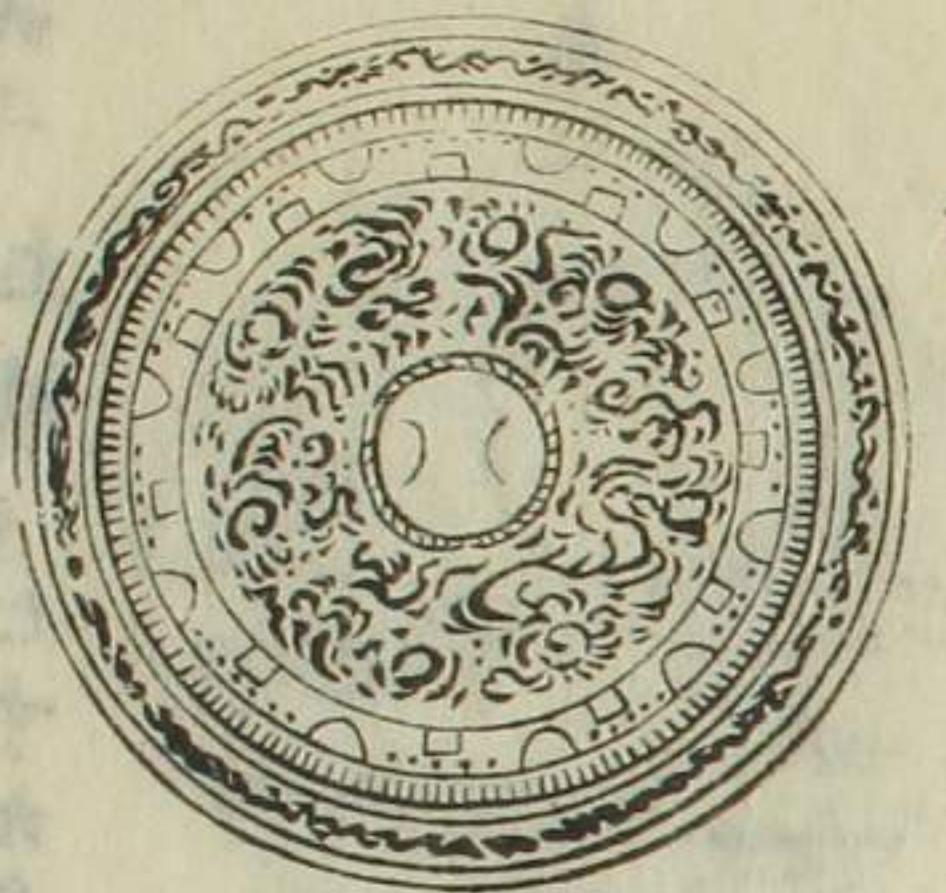
反正天皇一夜

祓禊之旧蹟也

古鈴之圖



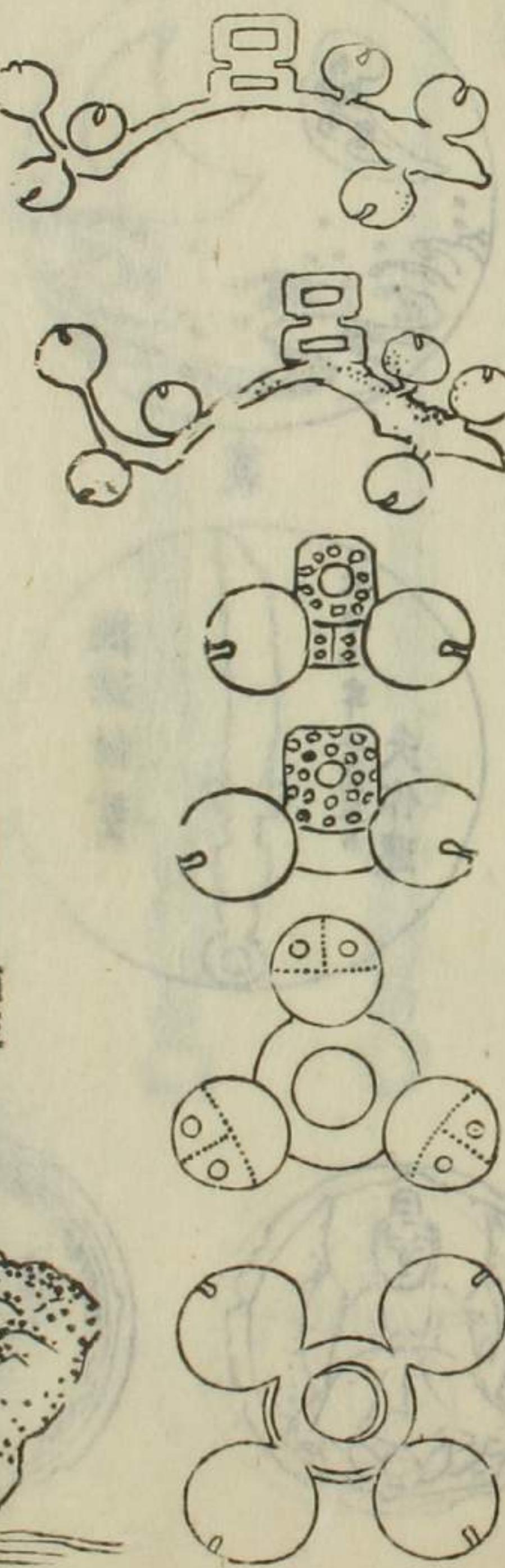
古鏡



高二尺二寸
橫三尺八寸



碑趺共自然石也



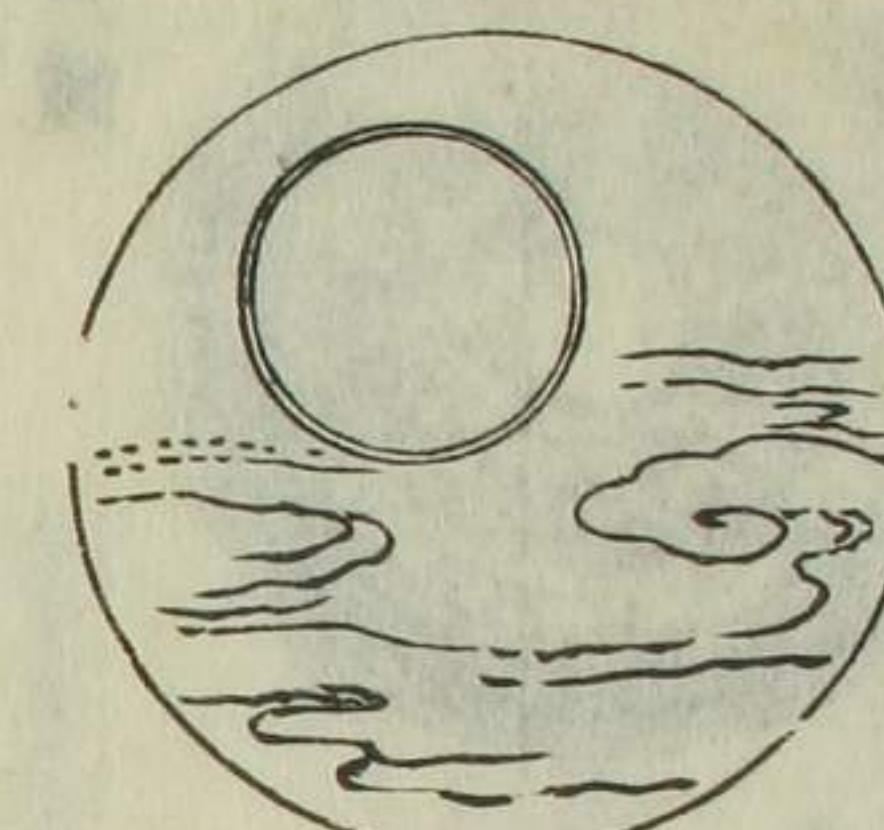
李因書

河三ノ十八

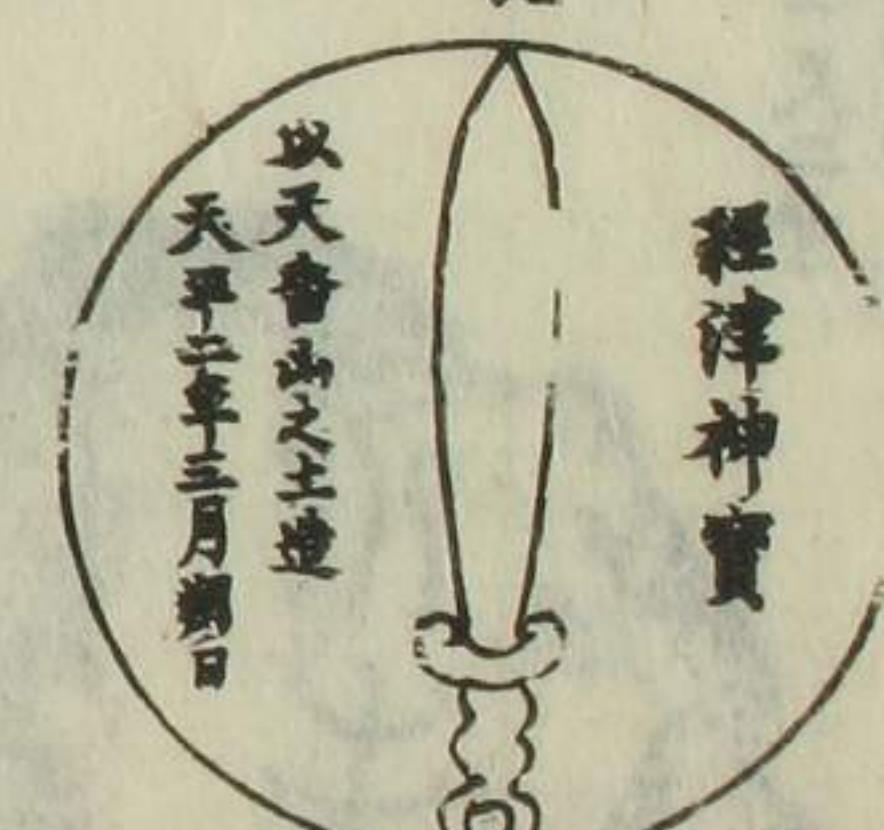
其二 土鏡目七寸九分

古瓦四品

表



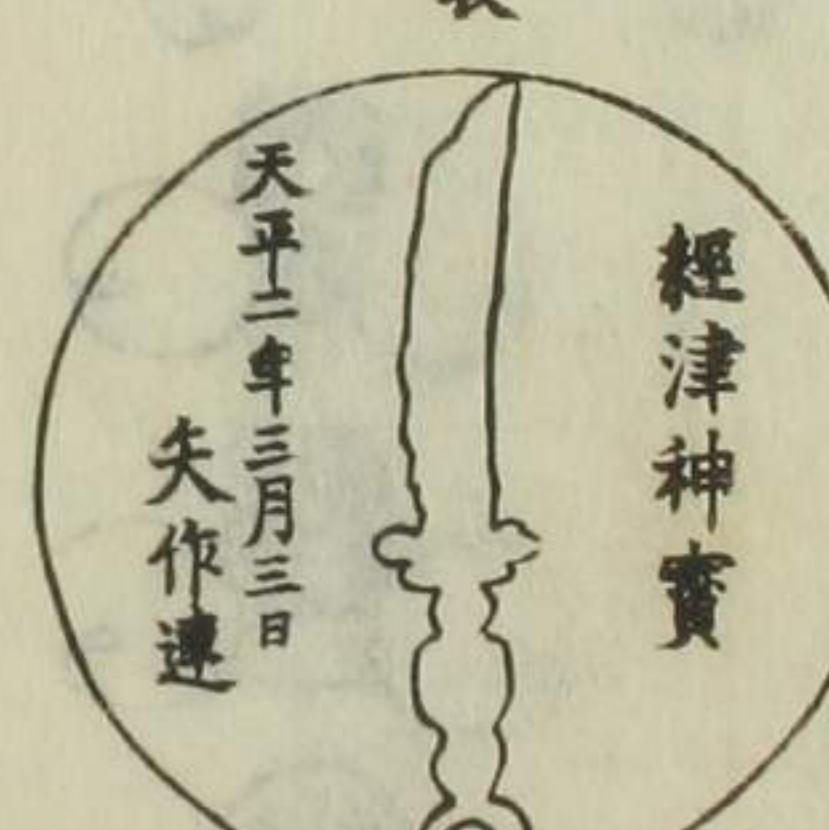
裏



裏

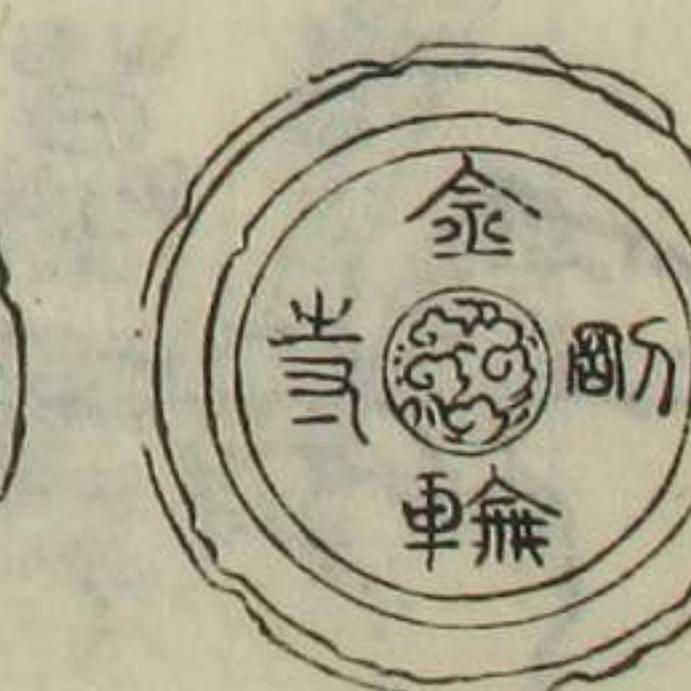


裏

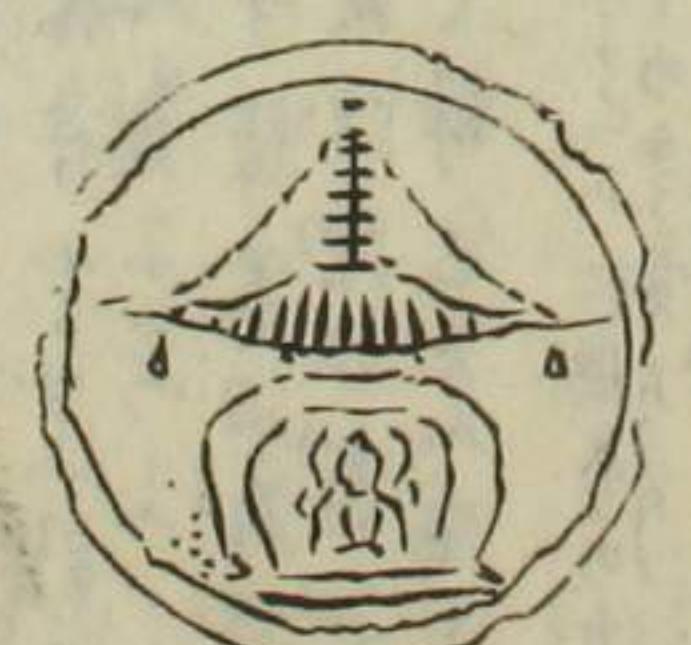


裏

布目有

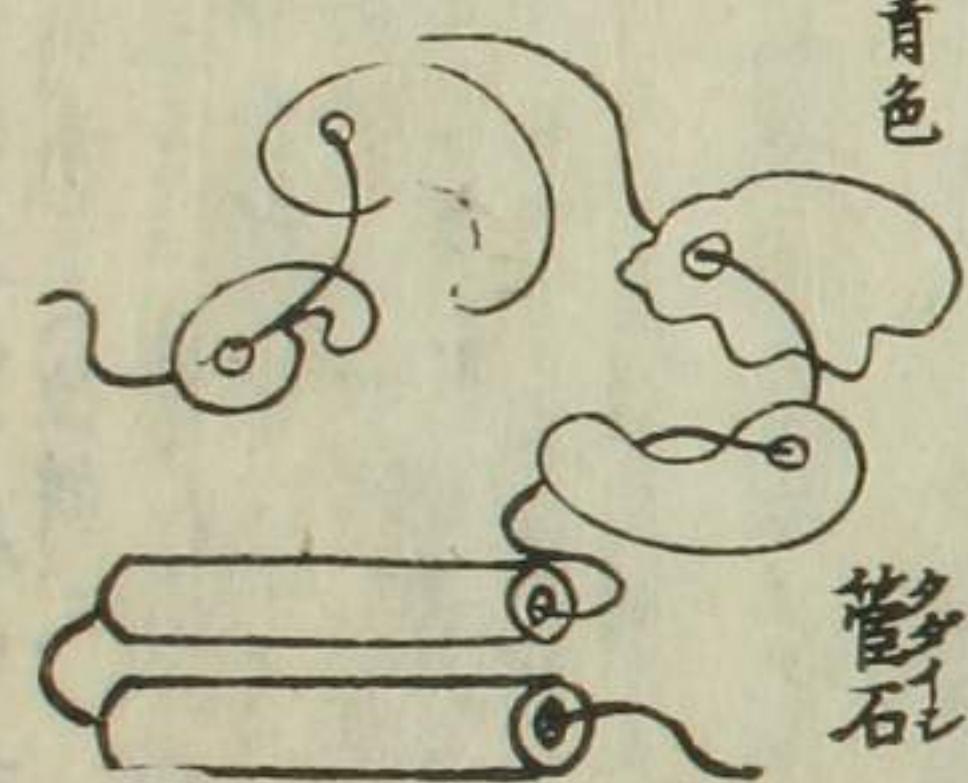
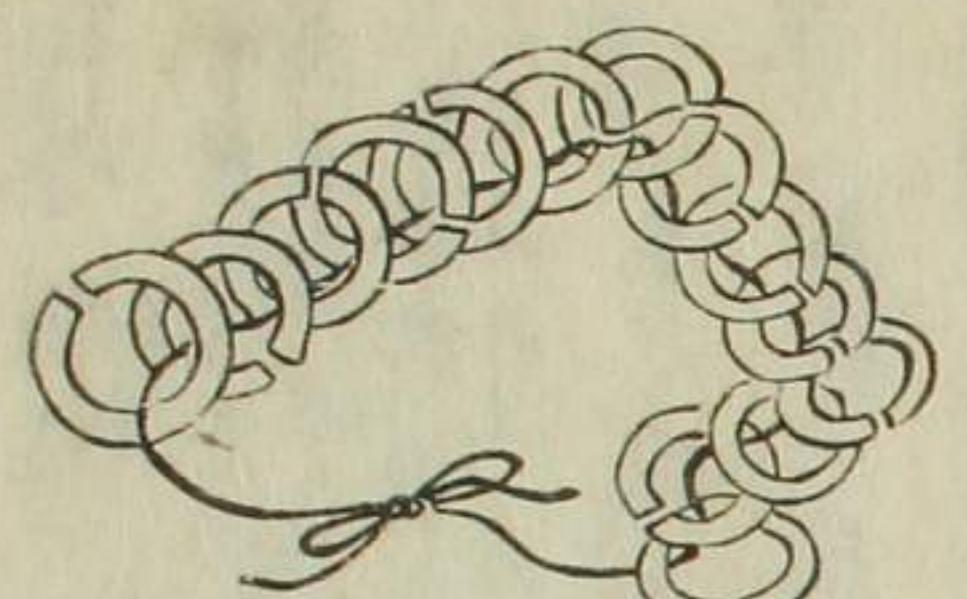


師霸 各長壹尺七寸六分半



金環十五个 徑七ハチ
青色

鈍玉 七々
鬱石 七々



古鏡二面有 長八寸

飛鳥

飛鳥村の上方ふあり
飛鳥中記

飛鳥

飛鳥川あはら川馬跡石あはら馬跡石あはらを經くわく石川いしかわふへは河牛かのう母

御金せの名所三家山みやけさんゆくろの圓七郎えんしちろうの健危鳥あきとり河原行宮あらぎや危鳥寺あきとりじ危鳥神社あきとりじ危鳥山あきとりさんに神社じんじゃ遠危鳥とあきとり高危鳥たかあきとりの吉野危鳥川あきとりがわの和哥十絆首わご大和名所圖と會あせり其餘ほかがく振ふり今いま

こく小出こくに和奇わきふより列れつく考か入いべべ

續古

事とや女の袖吹そでふきとあすの風かぜを連つづくとほくめ吹ふき

田原天皇

仲奇

日 あそく風かぜも文ふみたきやめ神かみふまらる奉まつれよの月

中勢ちせい親王

新後危鳥風あはらかぜふらじか婦人ふじん夫お都とのつづ今いまおひくなく

本大納言

高足

飛鳥

飛鳥戸神社あはらとじんじゃ新嘗しんじょう三代實築さんだじつしょく曰い貞觀元年八月授正四位下二年

十月列于官社とうげつ元慶四年賜田とうけい一町充春秋祭費とうし乃

縁氏人主えんじじゆ稅助等そくすけ所ところ奏さう云い云

生土神いのちのじん例たと案九月九日宮寺みやと常福寺じょうふく也よ御奉ごほう奉まつれ

閑基かんき小こて聖武帝せいぶの廟廟所ところ今いま荒廢こうひ奉まつれ

麻福田丸古蹟まふくたまるこつき出家しゆて智光法師ちこう附つきとと一夜弥陀まいとの靈れい夏なつ送おくり

得と極樂世界ごくらく小剣こくせん家費けいひ今牛頭天室うしとうと拂ぬぐひ所ところ

其圖南都そのず乞願きねん寺てらふあうととお

危鳥村あはらをつ入い鷹嵩別たか皇子ごんじゆ雖ま反正へんじやう之のに徳帝とくていの近習きんしゅ

危鳥假宮あはら其その身み乃の詔せしめとと作つくと

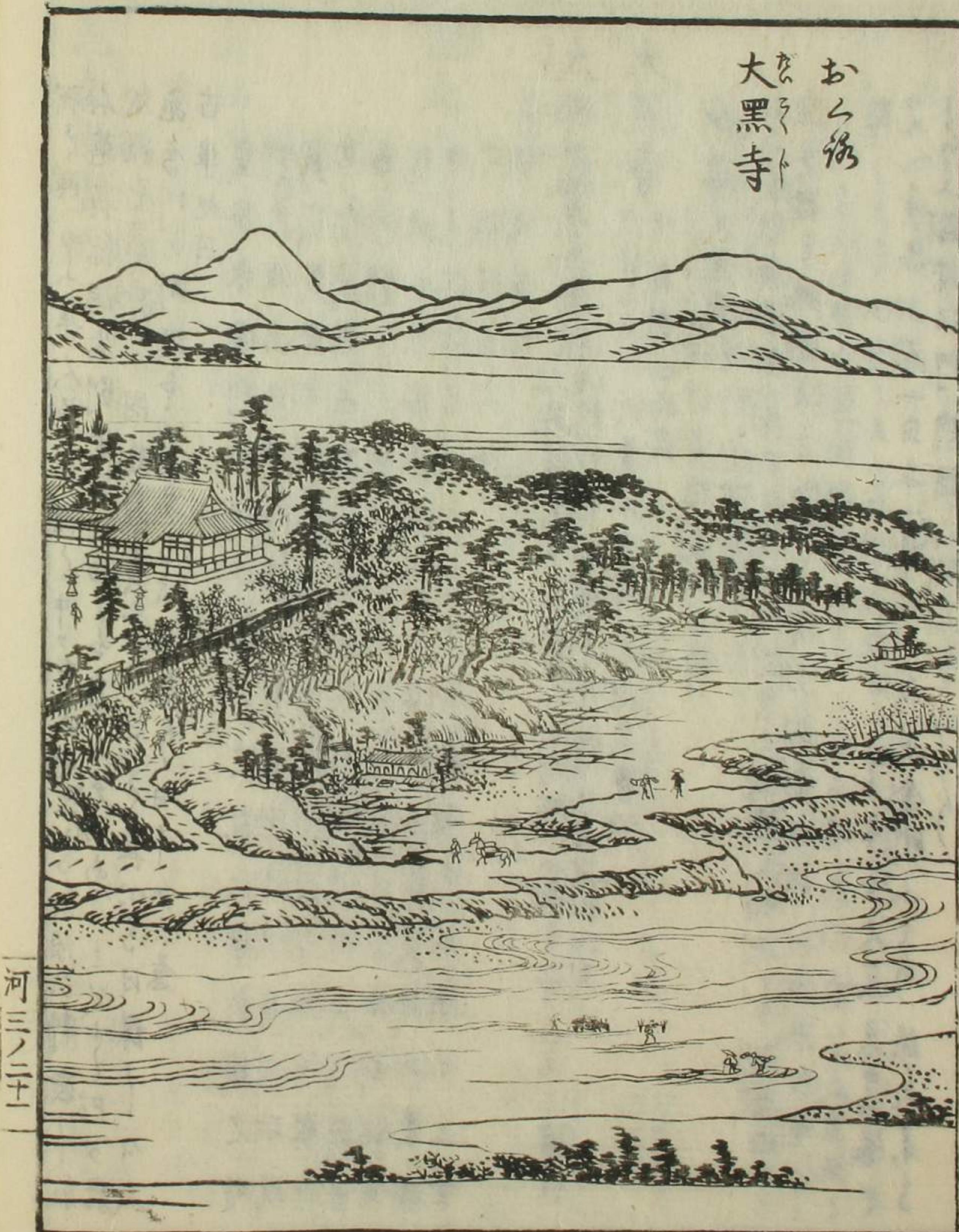
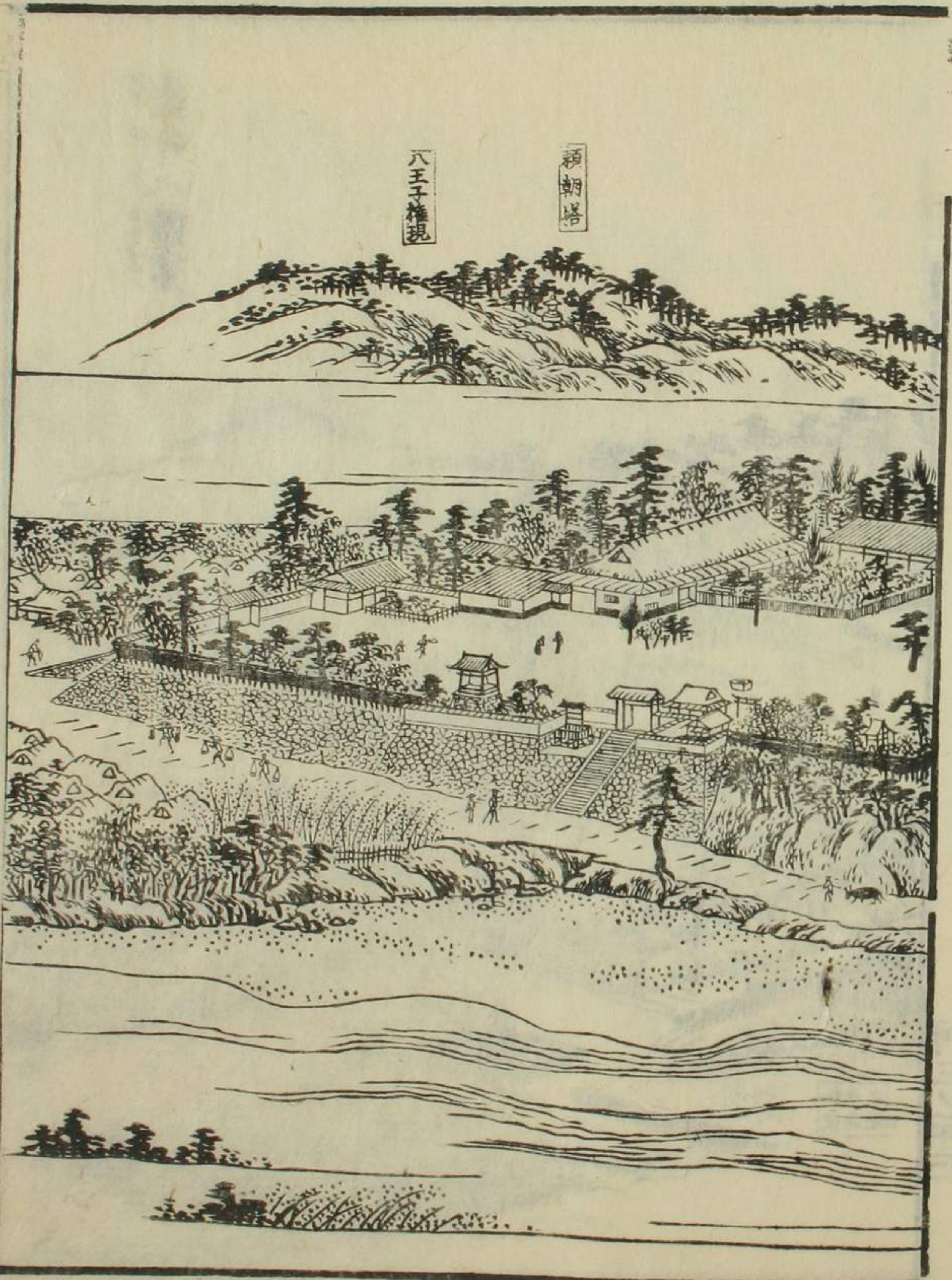
其圖南都そのず乞願きねん寺てらふあうととお

危鳥村あはらをつ入い鷹嵩別たか皇子ごんじゆ雖ま反正へんじやう之のに徳帝とくていの近習きんしゅ

危鳥假宮あはら其その身み乃の詔せしめとと作つくと

其圖南都そのず乞願きねん寺てらふあうととお

危鳥村あはらをつ入い鷹嵩別たか皇子ごんじゆ雖ま反正へんじやう之のに徳帝とくていの近習きんしゅ



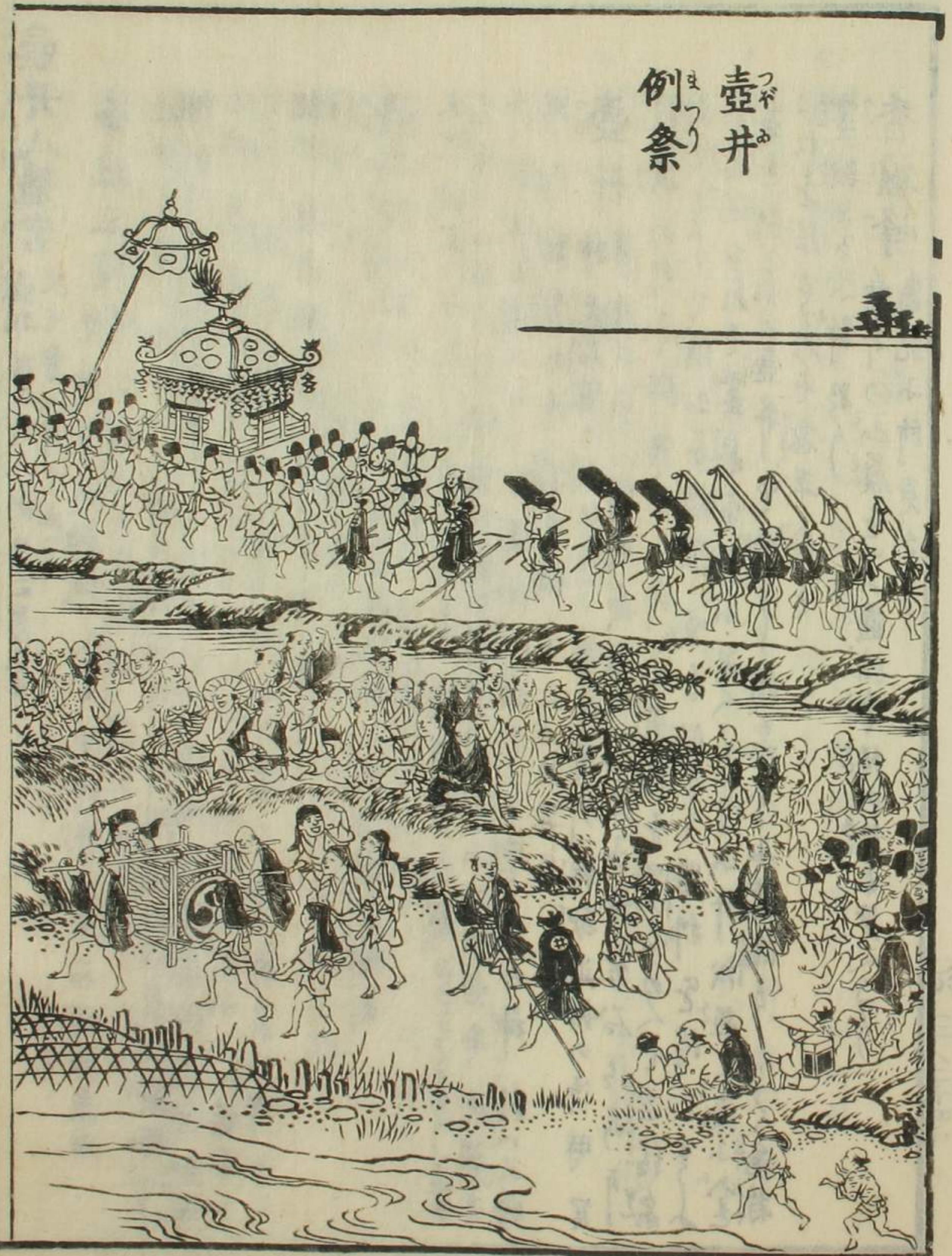


河三ノ二十二



壺井八幡宮

例 条 壺 井



河 三ノ二十三



壺井八幡宮

壺井村ふあり 制皇三月三日
放生會八月十五日

本社三座

祭神 中央 應神天皇 龙仲 哀天皇 右神功皇后

摂社 鹿肉大臣 各神像を安置

社傳云原は地を河内守源頼信朝臣同頼義朝臣等源家譜代の
館食たり天喜康平の頃奥州の強賊阿倍真任家任征伐の
時康平七年夏五月十五日山城國石清水西八幡宮を

相列縁食館ヶ岡八幡宮の神像也

日時ハリカクとぞ聞元

壺井權現社 中央 河内守源頼信

左 佐藤家頼勲

三代將軍を天仁二年秋八月詔公勅りて靈廟を立すより近世
元禄十四年常憲院殿の奏ハシタマニシ一位壺井權現也
軍浦贈位を進すを以て源氏小姓也 甲冑の神也 部八三將
壺井軍浦小姓頼義義家の清父子佐勢石清も有り
浦ハシタマニシ碑彌彌蒲を立すを靈廟を寄らゆゑ忽彌彌
漏ハシタマニシて涌出ふ諸軍候を聞く勝柳を得たまふ
其右陽々れぞ靈泉を壺井小湯ハシタマニシふ井狐掘也底ハシタマニシ生
孟是其より壺井池浦ハシタマニシ清泉今も傍濁ハシタマニシ病者
これを服也れど忽平金也

靈驗ハシタマニシ小新ハシタマニシ壺井の山巒を以て通法寺懸の鷺子見之

香爐峰

舊記小所見か

河三ノ二十四

壺井神寶

無柄鏡

御劍を代の宝を更形ハシタマニシ義家御臣奥州伝成の附

丸木弓

嘉保六年の秋源川高野の付八幡を即宮中ハシタマニシ御魔障伏ハシタマニシウムを忽

鉢

根ハシタマニシ三種ハシタマニシ鑑三鏡ハシタマニシ射撃ハシタマニシ中知根ハシタマニシ

白旗

大小二流源家主代の

勝色鎧

多田滿仲ハシタマニシ相傳有く八幡太郎ハシタマニシ上立神寶ハシタマニシ己

天光丸太刀

伯耆國安佐官名左馬頭安總作鬼切丸四脚と
御劍を弦先ハシタマニシ御魔障伏ハシタマニシウムを忽

新羅三節初陣鎧

安信宗仕野太刀長ス又

楠家菊水旗

後醍醐天皇真篇ハシタマニシ行南社小御綱ハシタマニシ行南ハシタマニシ

正行書

正儀書ハシタマニシ行外ハシタマニシ書

當社の例祭も弥生二日年の刹より神寧ニ基て拂旅所（渡拂あり初ふへを般若因產神八卒の鋸三脛の弓箭を刀鎧金蓋ニ柄神供の廟櫨供奉の社勢も手裏不棄く處宇小列を祀し其外社家めんく神樂乙女神人官仕等る前後本供奉一石川源原の芝生并四阿屋狐毛門らひ是と拂旅所（拂）てあふわにしきり年によりて供水あるふうりて延享年中よを神社の西の方義家公れ拂廟のやうに改置なれば此地も源家二代武將名居城にて河内守を任國へ故ニハ憫宮欲勤清一二代の墳塋も近隣下有又むく一化輪寺と云ふ強剣ありこれと頼義公奥州征伐の時缺身方亡平松退後の為小建えれ卒も小慈覺大院の化身ア阿弥陀佛と安置に後母慶寺也形にて化輪寺萩金堂坐かせ園の室也形づね拂車を乞願すをす壺井の什寶と取れぬよきみが一雙の壺よりて源家の領也見だすア後母い御くせかつて麻姑の桑海を見たるふ也

石丸山通法寺（通法寺村小字）宗旨真言新義
石丸山通法寺（通法寺村小字）宗旨真言新義
石丸山通法寺（通法寺村小字）宗旨真言新義

卒号阿弥陀佛（觀音勢至の三尊）冠輪化不動尊（智證大師化）
右の子孫元孫幸九郎（常軒院殿津寄附）
觀音堂（卒号千手觀音）段を人立す許（源頼義公感像）
鎮守（文忠左神）八幡上ノ社（猶荷山）
賴義公魂舍（觀音堂）
賴信公墳（寺堂の異）
義家公墳（頼信公墳うそ寺門牛）
當山も初河内守源頼信の館舍取て長子頼義公相傳してこうふ居経て終て孫もふせ處の東北小仁海上人の舊跡ありて仁海若とよぶある時其谷より光明赫々として諸人奇異の心公うれ頼義公靈光の原を尋ねる所（仁海）之は則長久に年九月才感得（仁海）と號す中少一宇（仁海）精舍が建營して通法寺中號を此所小於く八幡を即義家公賀底次郎新羅

三郎等あつて出立あり其後平相國入道學を知る源家
表慶一只是の事庵小感淳の大悲尊像一軒のみ在り

年久一後世元禄十三年辰の春

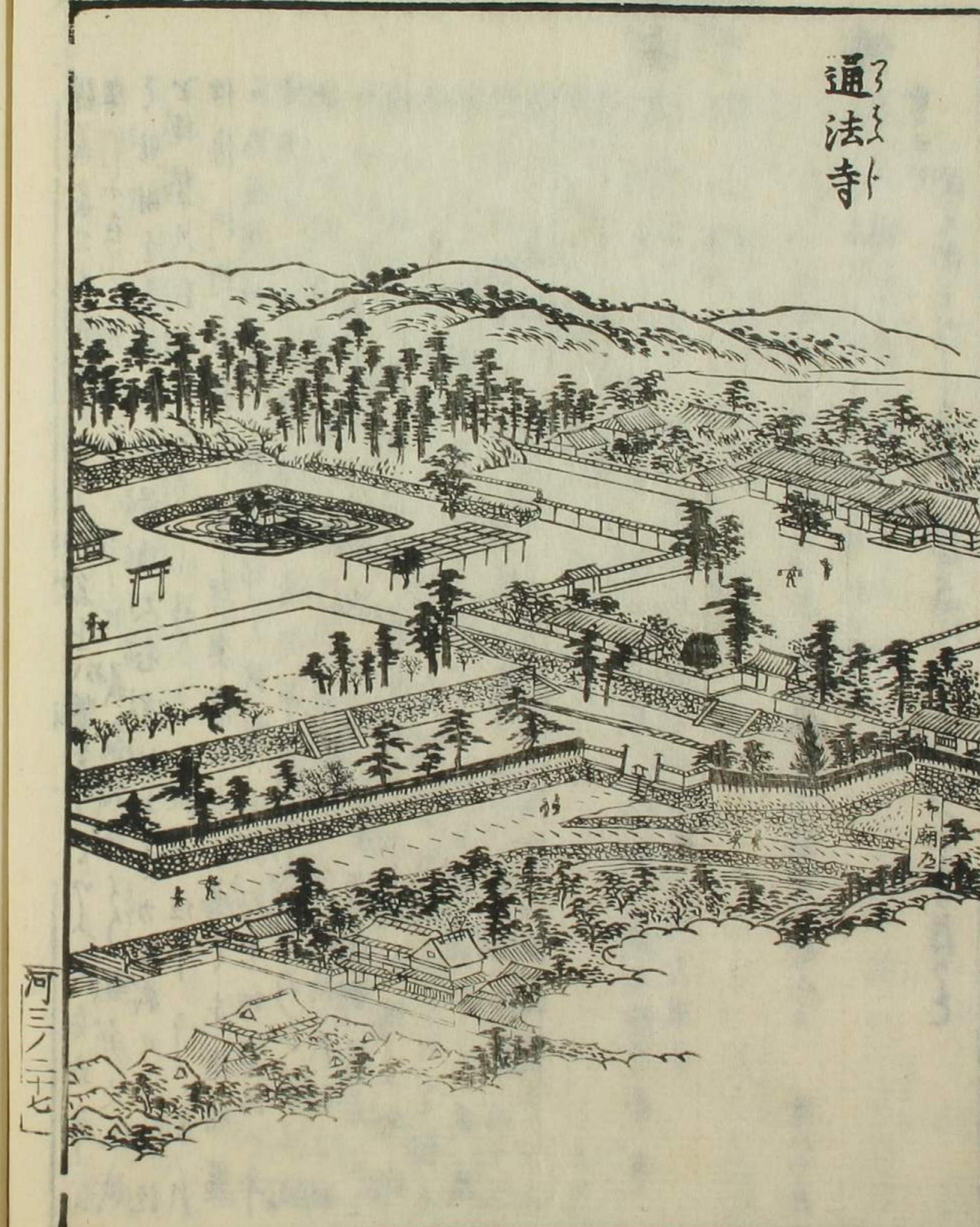
大樹常憲院殿尊君台命城下今の如く建立ひ

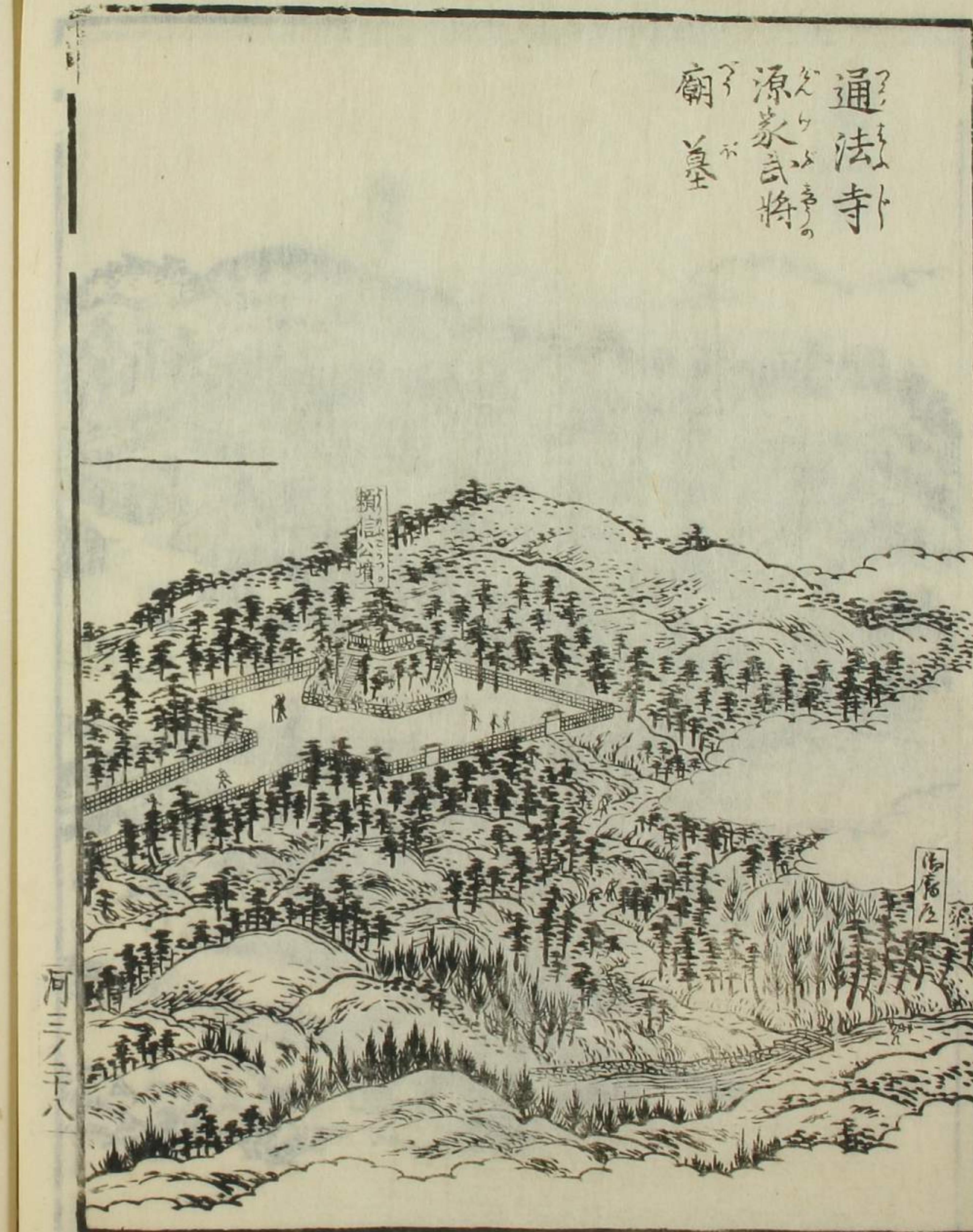
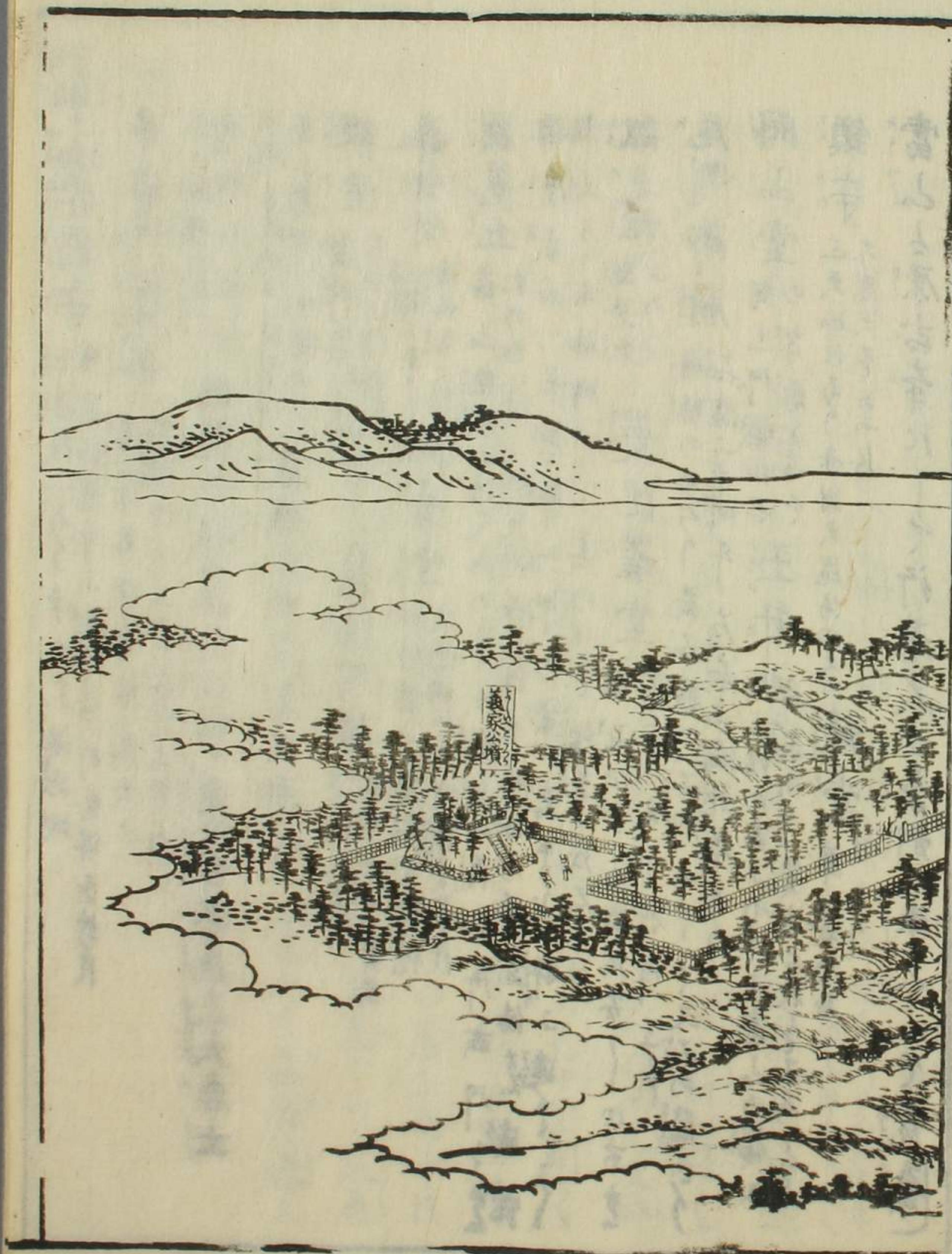
諸堂魏々源家の宗廟

源頼義公も河内守頼信の長子へ一條院侍官利官代小糸一河内
甲斐相模上野武藏伊豆等の園宗公属く承義立年陸奥國
の強賊安倍頼時私を取るに中後者に於て時頼義小
詔に陸奥守鎮守府將軍に任す賊軍を為し半年前所
其軍を攻め遂に小敗を其子貞任支黨を率いて宮軍中強
其軍を撃破するに中興五年五月天喜五年九月頼時と
其軍を斬り都下に登り源氏を率いて勤陣の日正四位上位所
又民部少輔小保左馬助を兼ねて洛陽西六條ふ
其車を斬り都下に登り源氏を率いて勤陣の日正四位上位所
老後佛門に入歸る承保二年五月二日卒初メ奥列伝成志
其車を斬り都下に登り源氏を率いて勤陣の日正四位上位所
頼義禮を重んじ功を譽めて恩賞に給はれて平忠定後
諸士惠公様をみかしける源氏の家人也と稱へ人也

源義家公も頼義の胄孙幼名を八幡守御とす天喜五年
奥列不在の鬼賊いぢり際へて義家騎冠とす天喜五年
馬射を善く善原景道大名若任者とが公様せし御法度
と撃倒れ凱旋の日賞に給ひて徒五位下に叙せられ
伊豫河内武藏下野陸奥等の守候へて左近侍監
左馬権頭治部少輔兵部大輔等小使役を初寛治八年
陸奥守とす當時鎮守府將軍清原武郎及び其子武
僧家衛國守の令小使役を初寛治八年
奥列御前守府將軍と称す嘉義元年七月四日卒
義家之義親と謀反にて謀す当季弘義忠と
義光遂に其家と奪はれてと云
あくに松小走りて御武郎等成攻くこれを殺す
され朝議松戻をよしのゆえに恩賞かく其後
張守府將軍と称す嘉義元年七月四日卒
義光父義亮の家小富せらる
義光遂に其家と奪はれてと云
かづち形や序跋山の序跋にもう表すを語そと云
博多川石川の別名伯を神社の名を

開き能を活く手に波可多川もとを公作すす月と
博多川伯を川也





王安福寺

落東新恩寺小属を常行念佛を禁し

卒尊阿弥陀佛

脇僧院殿三学慈光大師也

南の船禮と尾列公

神牌を布く瑞龍院殿二品前亞相天蓮社順譽源正大居士

此鄉と尾列洋二代の大寺

山建雲の卒領うり尾張大納言光友卿

經堂寶冠殊院を布く

弘法大师作

龍眼肉樹

燒肉にあり

壽世堂圓信庵と云

行者堂又金洞の虛空藏を布く

圓見丘山頭ふあり

従り者と聖寶を附也

圓見丘山絶勝の地

みの房と羅波の巖戸清川

圓見丘赤石

天王守住右社碑の傳酒海也遊也

圓見丘後摩耶

六甲の翠玉

圓見丘清人

山の日と領半

圓見丘之松

千葉樹

圓見丘尾列御廟

圓見丘門石刻

圓見丘曼陀羅堂

先づ千葉樹

圓見丘岡山堂

圓見丘門石刻

圓見丘鎮守

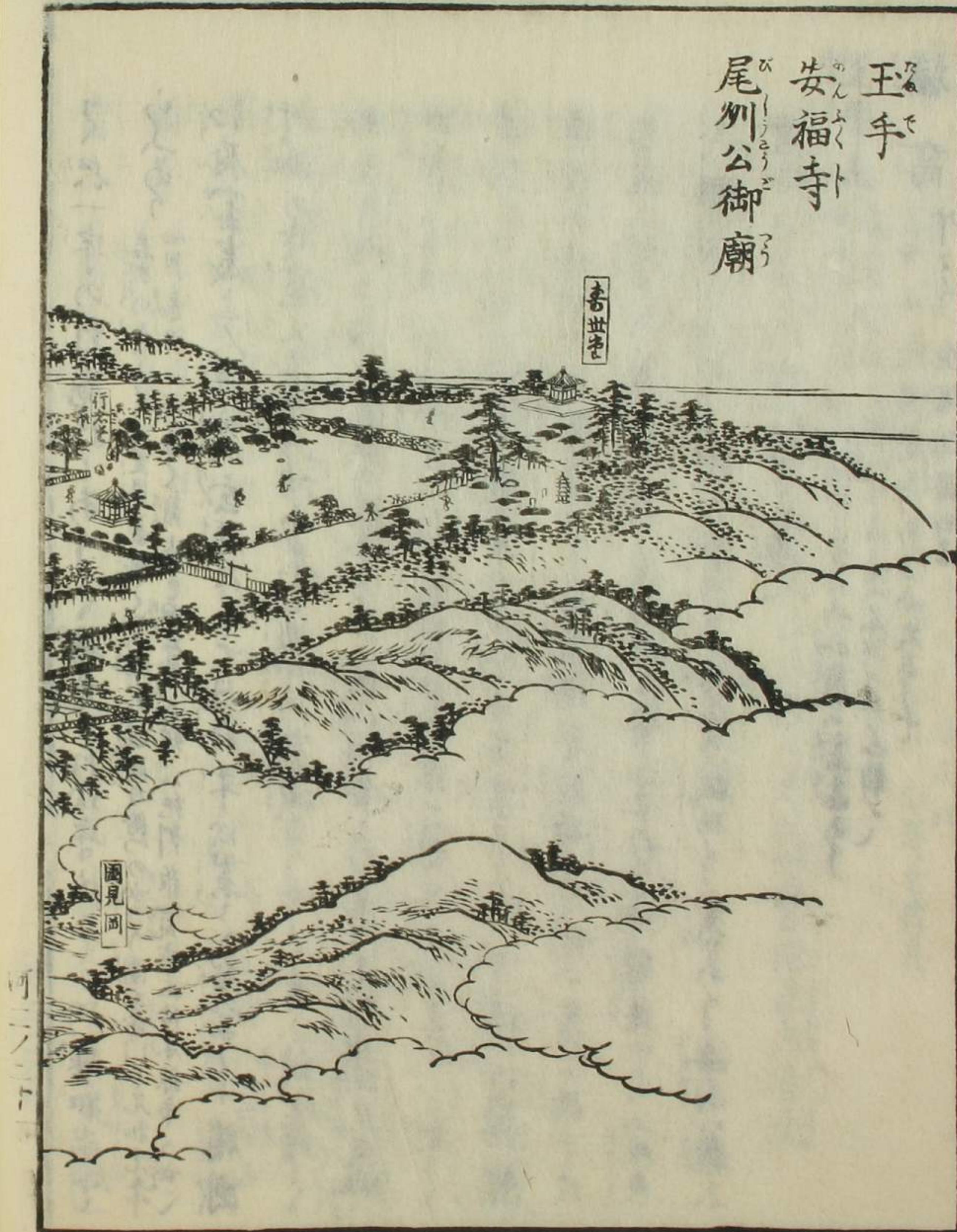
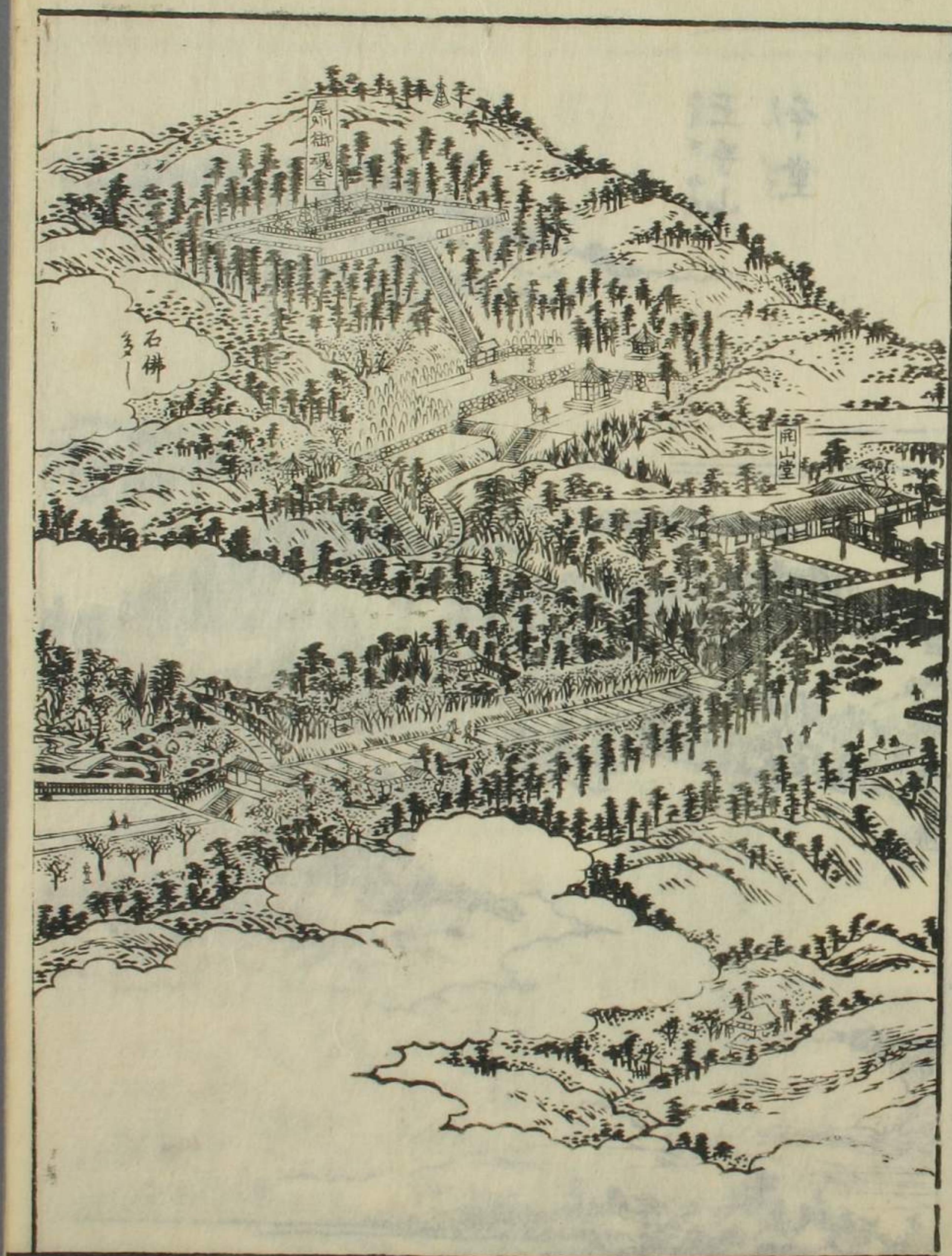
大黒天を有す

圓見丘雷山古寺

にて行基大士荼利く年久々を荒廃

此字の州庵也もあつて村老云ひ守ゆらう小珂憶和尚也
あり、四月新居に井水を取先を有る婦の婦ハ紀列難賀城主於本綠市
江府室處上人法師の玄孫にて昭和年公里第も書家一諸國
行脚の時寛文年中此地不來已後妙の靈感きくぞく宮小許と浮く
佛屋院と済法宗流の桂全也と幽山園墓と称す是は尾列亞相光友卿
和尚を尾列公也不思議と今之世ふこれを珥憶建ゆる風色
寺院の建方れ風俗にて高梁修也柱極とく地の慶小松トテ
泰風ふ御也萬世不易とく今之世ふこれを珥憶建ゆる風色
一眼の中に山あり川あり堂あり書家一感りて書あり海面の遊ふ
也くつて河内一列の名勝也

王手山 安福寺境内及び東の山とアシ山頂ふ雲氣あり
壠窩 中より金環陶器出る





伯太彥神社

鎌延喜式出天安二年二月頃官社云玉手村及天王島より
安福寺の落成より今半頭天王坐神社玉手の生土神より

伯太姫神社

鎌延喜式出天安二年二月頃官社云
鎌延喜式出天安二年二月頃官社云

奥田忠一墓

圓明村下あり今白山推現と林

慶長戰場

圓明玉手行山諸村の間下あり河内志曰慶長乙卯五月
六日後藤基次薄田兼相兵を率て出城を仙基

家臣下倉小十郎これを駕て基次薄田兼相の首と獲る也

今は壇の土中より武器出る羽根重張左櫓矢根等迎奉

田園の中よりある

安福寺に在り

春日神祠

田舎村下あり又岩窟下

天王祠

圓明村下あり

國分廢寺

圓明村舊殿下石像の他藏あり延喜式云圓明寺碑一卷
今觀音堂あり弘法大師作の正觀音を有し歌を尺五寸

枯桜岳

圓明村の東南にあり原溪

あら原田尾山中よりある

名產菖蒲

田舎村下あり

安福寺に在り

河内名前圖會卷之三

